

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【提出先】 関東財務局長殿

【提出日】 平成29年5月26日提出

【計算期間】 第6特定期間（自 平成28年8月26日 至 平成29年2月27日）  
アムンディ・欧州リート・ファンド（高金利通貨戦略コース）＜毎月決算型＞  
第6期計算期間（自 平成28年8月26日 至 平成29年2月27日）  
アムンディ・欧州リート・ファンド（高金利通貨戦略コース）＜年2回決算型＞

【ファンド名】 アムンディ・欧州リート・ファンド（高金利通貨戦略コース）＜毎月決算型＞  
アムンディ・欧州リート・ファンド（高金利通貨戦略コース）＜年2回決算型＞

【発行者名】 アムンディ・ジャパン株式会社

【代表者の役職氏名】 代表取締役 ジュリアン・フォンテーヌ

【本店の所在の場所】 東京都千代田区内幸町一丁目2番2号

【事務連絡者氏名】 青木 章人

【連絡場所】 東京都千代田区内幸町一丁目2番2号

【電話番号】 03-3593-9023

【縦覧に供する場所】 該当事項はありません。

## 第一部【ファンド情報】

### 第1【ファンドの状況】

#### 1【ファンドの性格】

##### (1)【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドの目的

インカムゲインの確保と中長期的な投資信託財産の成長を目指して運用を行います。

ファンドの特色

#### 1. 当ファンドは、欧州の金融商品取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）されている不動産投資信託証券（リート）を実質的な主要投資対象とします。

\* 不動産投資信託証券を、以下「リート」といいます。

\* 実質的に不動産関連株式等にも投資します。

欧州のリートを実質的な主要投資対象とする円建の外国籍投資信託「アムンディ・インターインベスト-リート・欧州」と、円建の国内籍投資信託「C A マネープールファンド（適格機関投資家専用）」を投資対象とするファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。

ファンド・オブ・ファンズとは複数の投資信託証券に投資する投資信託のことをいいます。

投資信託証券を、以下「投資信託」と記載します。

欧州のリーートの運用は、アムンディ アセットマネジメントが行います。

#### ■不動産投資信託証券(リート) (REIT: Real Estate Investment Trust)とは

不動産を主な投資対象とする投資信託あるいは投資法人の総称です。賃貸オフィスビルや賃貸マンションなど安定した収益を生んでいる不動産を取得し、その賃貸収入や売却により生じた収益から不動産の維持・管理費用や支払金利を差し引いた利益を投資家に分配します。

#### ■リーートの仕組み

【イメージ図】



#### 2. 主要投資対象とする外国籍投資信託において為替取引を行います。

ユーロ売り / 取引対象通貨（当ファンドにおいては「選定通貨」を指します）買いの為替取引を行います。

< 選定通貨とは >

選定通貨とは、投資対象とする外国籍投資信託の投資顧問会社（副投資顧問会社を含む）が選定した通貨をいいます。詳細は、後記「各ファンドが投資対象とする投資信託の概要 外国籍投資信託」の投資方針をご参照ください。

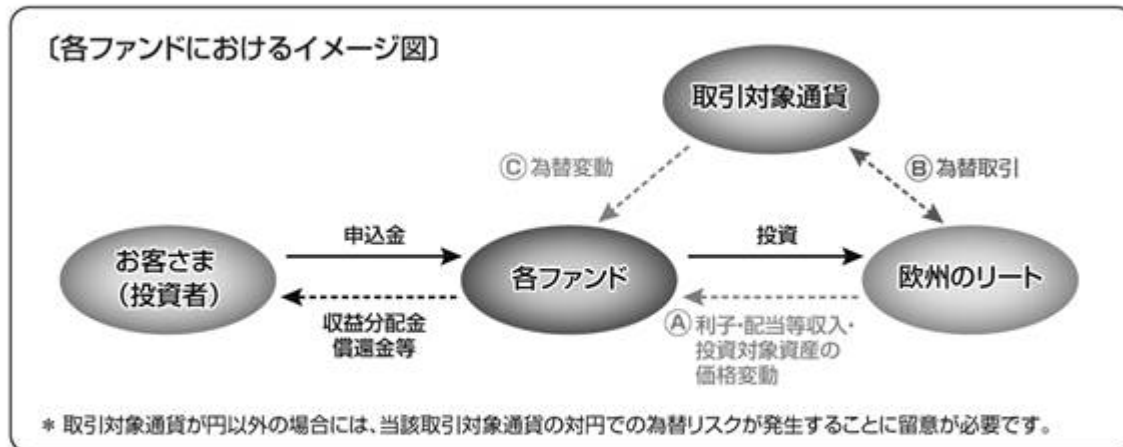
< ファンドの収益源/基準価額変動要因のイメージ >



\* 為替取引を行う際に外国籍投資信託が保有する実質的なユーロ建資産額と為替取引額を一致させることができないため、主に円に対するユーロの為替変動の影響を受ける場合があります。

## 〔通貨選択型投資信託の収益のイメージ〕

- 通貨選択型の投資信託は、株式や債券などの投資対象資産への投資に加えて、為替取引の対象通貨を選択できるように設計された投資信託です。なお、各ファンドの実質的な投資対象資産は欧州のリートです。



※ 各ファンドは、実際の運用においてはファンド・オブ・ファンズ方式により運用を行います。

- 各ファンドの収益源としては、以下の3つの要素が挙げられます。これらの収益源に相応してリスクが内在していることに注意が必要です。



	A 欧州のリート	B 為替取引	C 為替変動
収益を得られるケース	<ul style="list-style-type: none"> <li>金利の低下</li> <li>発行体の信用状況の改善</li> </ul> <p>↑ リート価格の上昇</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>取引対象通貨の短期金利 &gt; ユーロの短期金利</li> </ul> <p>↑ プレミアム(金利差相当分の収益)の発生</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>円に対して取引対象通貨高</li> </ul> <p>↑ 為替差益の発生</p>
損失やコストが発生するケース	<ul style="list-style-type: none"> <li>金利の上昇</li> <li>発行体の信用状況の悪化</li> </ul> <p>↓ リート価格の下落</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>取引対象通貨の短期金利 &lt; ユーロの短期金利</li> </ul> <p>↓ コスト(金利差相当分の費用)の発生</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>円に対して取引対象通貨安</li> </ul> <p>↓ 為替差損の発生</p>

※ 一部の取引対象通貨については、NDF取引を用いて為替取引を行います。NDF取引による価格は需給や当該通貨に対する期待等により、金利差から想定される為替取引の価格と大きく乖離し、当該金利差から想定される期待収益性と運用成果が大きく異なる場合があります。

※ 市況動向等によっては、上記の通りにならない場合があります。

### 3. <毎月決算型>と<年2回決算型>があります。

<毎月決算型>は、毎決算時（原則として毎月25日。休業日の場合は翌営業日）に、原則として収益分配方針に基づき収益分配を行います。

<年2回決算型>は、毎決算時（原則として毎年2月および8月の25日。休業日の場合は翌営業日）に、原則として収益分配方針に基づき収益分配を行います。

分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益（評価益を含みます）等の全額とします。

分配金額は、委託会社が基準価額水準および市況動向等を勘案して決定します。

ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。したがって、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき元本部分と同一の運用を行います。

#### 〔収益分配金に関する留意事項〕

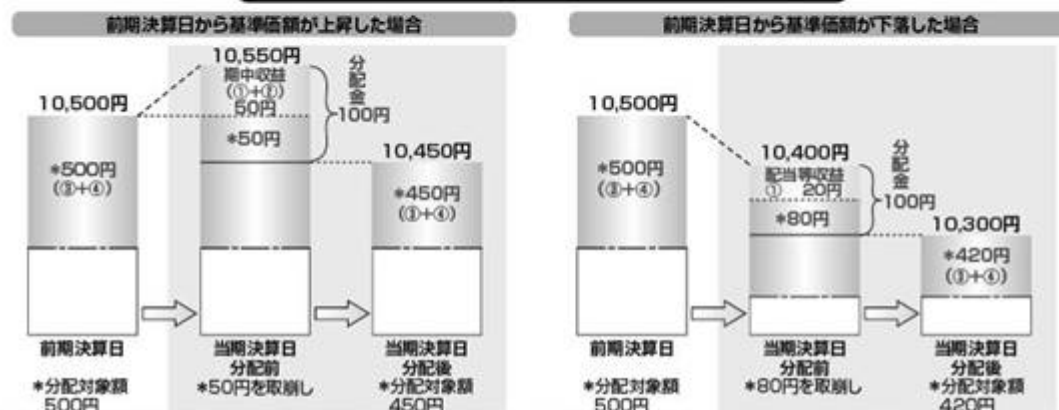
●分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託で分配金が支払われるイメージ



●分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

#### 計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

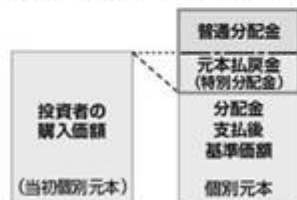


(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

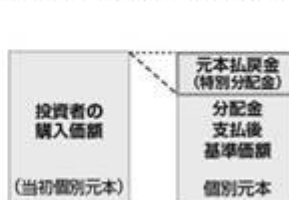
●投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり幅が小さかった場合も同様です。

#### 分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

#### 分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金：個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

(注) 普通分配金に対する課税については、後記「4 手数料等及び税金」の「(5) 課税上の取扱い」をご参照ください。

資金動向および市況動向等によっては、前記のような運用ができない場合があります。

ファンドの基本的性格

ファンドは追加型投信 / 海外 / 不動産投信に属します。

商品分類については一般社団法人投資信託協会「商品分類に関する指針」に基づき分類しております。

商品分類表<毎月決算型/年2回決算型共通>

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型	国内	株式 債券
	海外	不動産投信
追加型	内外	その他資産 ( )
		資産複合

(注) ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

なお、ファンドが該当する各分類(表の網掛け部分)の定義は以下のとおりとなっております。

追加型投信	一度設定されたファンドであっても、その後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。
海外	目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
不動産投信 (リート)	目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

## 属性区分表＜毎月決算型＞

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル		
	年2回	日本		
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ( )	年4回	北米	ファミリー ファンド	あり ( )
	年6回 (隔月)	アジア オセアニア		
不動産投信	年12回	中南米		
その他資産 (投資信託証券 (不動産投信))	(毎月)	アフリカ	ファンド・オブ ・ファンズ	なし
	日々	中近東(中東)		
資産複合 ( )		エマージング		
資産配分固定型 資産配分変更型	その他 ( )			

## 属性区分表＜年2回決算型＞

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル		
	年2回	日本		
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ( )	年4回	北米	ファミリー ファンド	あり ( )
	年6回 (隔月)	アジア オセアニア		
不動産投信	年12回	中南米		
その他資産 (投資信託証券 (不動産投信))	(毎月)	アフリカ	ファンド・オブ ・ファンズ	なし
	日々	中近東(中東)		
資産複合 ( )		エマージング		
資産配分固定型 資産配分変更型	その他 ( )			

(注) ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

\*属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

なお、ファンドが該当する各分類（表の網掛け部分）の定義は以下のとおりとなっています。

その他資産（投資信託証券（不動産投信））	目論見書または投資信託約款において、組入れている資産が主として投資信託証券であり、実質的に不動産投信を投資対象とする旨の記載があるものをいいます。
年12回（毎月）	目論見書または投資信託約款において、年12回（毎月）決算する旨の記載があるものをいいます。
年2回	目論見書または投資信託約款において、年2回決算する旨の記載があるものをいいます。
欧州	目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
ファンド・オブ・ファンズ	「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいいます。
為替ヘッジなし	目論見書または投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいいます。

各ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用されます。このため組入れている資産を示す属性区分上の投資対象資産（その他資産（投資信託証券（不動産投信）））と収益の源泉となる資産を示す商品分類上の投資対象資産（不動産投信）とが異なります。

\* 商品分類表および属性区分表に記載された当該ファンドにかかる定義（上記網掛け部分）以外の定義については、一般社団法人投資信託協会のホームページ（<http://www.toushin.or.jp/>）をご参照ください。

#### 信託金の限度額

各ファンドの信託金の限度額は、各3,000億円です。

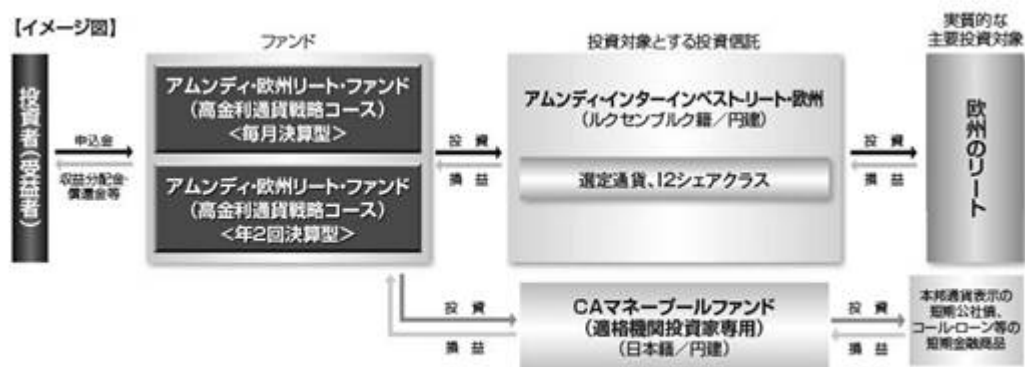
ただし、委託会社は受託会社と合意のうえ、当該限度額を変更することができます。

#### (2) 【ファンドの沿革】

平成26年3月14日 ファンドの投資信託契約締結、ファンドの設定・運用開始

#### (3) 【ファンドの仕組み】

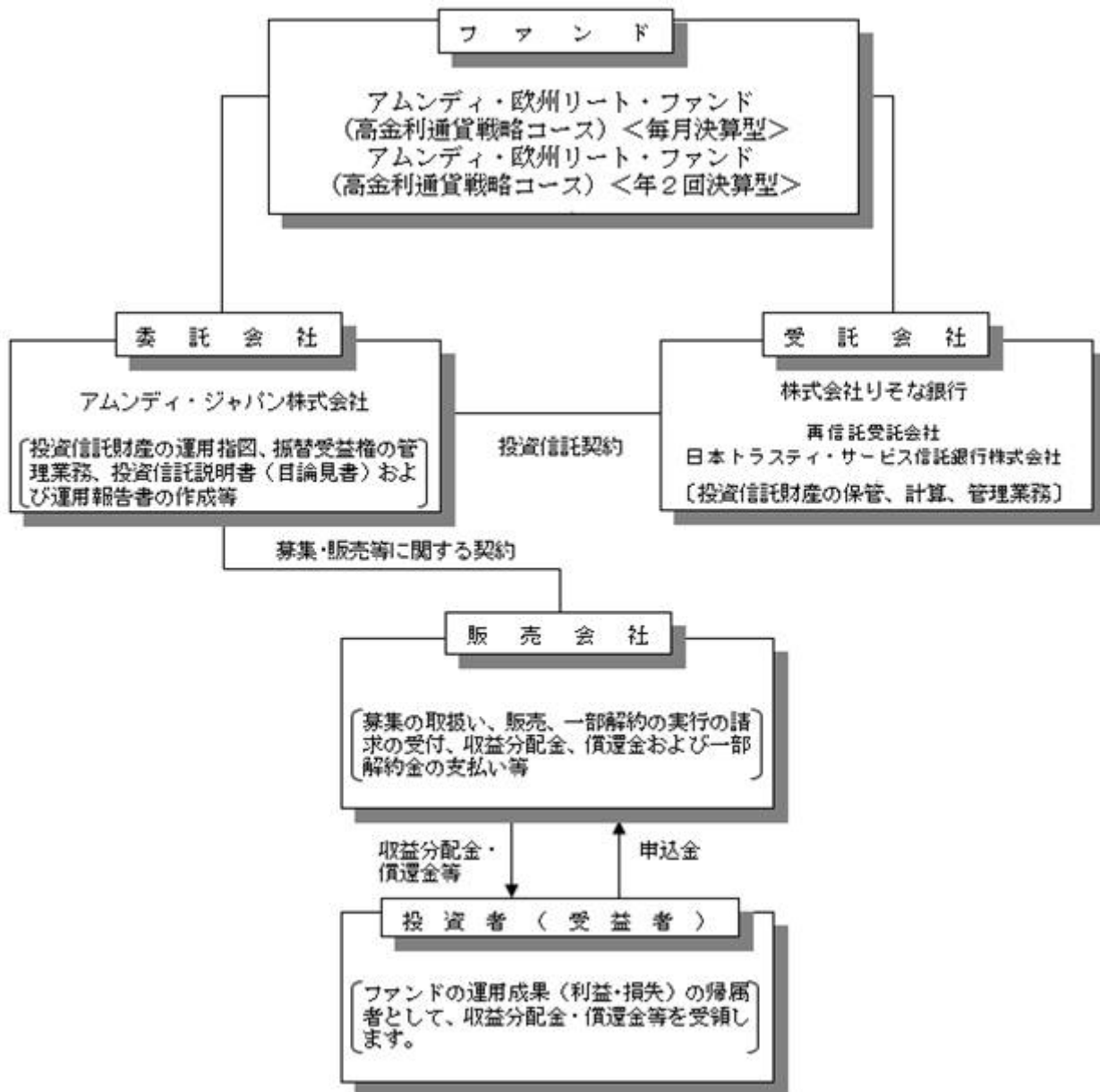
ファンドの仕組みは、以下の通りです。



\*各ファンドの「アムンディ・インター・インベストリート・欧州」への投資比率は、原則として90%以上とすることを基本とします。

ファンドの関係法人および関係業務は、以下の通りです。

#### ファンドの関係法人



## 各契約の概要

各契約の種類	契約の概要
募集・販売等に関する契約	委託会社と販売会社の間で締結する、募集の取扱い、販売、一部解約の実行の請求の受付、収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等に関する契約
投資信託契約 (証券投資信託にかかる投資信託契約 (投資信託約款))	委託会社と受託会社の間で締結する、当該証券投資信託の設定から償還にいたるまでの運営にかかる取り決め事項に関する契約

## 委託会社の概況

名称等	アムンディ・ジャパン株式会社（金融商品取引業者 登録番号 関東財務局長（金商）第350号）
資本金の額	12億円



会社の沿革	昭和46年11月22日	山一投資カウンセリング株式会社設立		
	昭和55年 1月 4日	山一投資カウンセリング株式会社から山一投資顧問株式会社へ社名変更		
	平成10年 1月28日	ソシエテ ジェネラル投資顧問株式会社(現アムンディ・ジャパンホールディング株式会社)が主要株主となる		
	平成10年 4月 1日	山一投資顧問株式会社からエスジー山一アセットマネジメント株式会社へ社名変更		
	平成10年11月30日	証券投資信託委託会社の免許取得		
	平成16年 8月 1日	りそなアセットマネジメント株式会社と合併し、ソシエテジェネラルアセットマネジメント株式会社へ社名変更		
	平成19年 9月30日	金融商品取引法の施行に伴い同法の規定に基づく金融商品取引業者の登録を行う		
	平成22年 7月 1日	クレディ・アグリコル アセットマネジメント株式会社と合併し、アムンディ・ジャパン株式会社へ社名変更		
大株主 の状況	名 称	住 所	所有株式数	比率
	アムンディ・ジャパンホールディング株式会社	東京都千代田区内幸町一丁目2番2号	2,400,000株	100%

(本書作成日現在)

## 《アムンディ概要》

アムンディは、フランスの農業系金融機関の中央機関として1894年に設立されたユニバーサルバンク、クレディ・アグリコル・グループの資産運用部門です。アムンディの運用資産額は1兆830億ユーロ(約133兆円、1ユーロ=122.70円で換算。2016年12月末現在)にのぼり、世界トップクラスの運用会社の1つです。世界30カ国以上の主要な投資地域の中心に拠点を持ち、すべてのアセットクラスや主要通貨を網羅する広範囲な運用商品を提供しています。

## 2【投資方針】

### (1)【投資方針】

#### 運用方針

この投資信託は、インカムゲインの確保と中長期的な投資信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。

#### 投資態度

(イ) 欧州の金融商品取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）されている不動産投資信託証券を主要投資対象とする、実質的にユーロ建資産を保有する円建（本邦通貨表示）の外国籍の投資信託証券を主要投資対象とし、インカムゲインの確保と中長期的な投資信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。外国籍の投資信託証券において、

ユーロ建資産は原則として選定通貨で為替取引を行います。

当ファンドにおいて、選定通貨とは、投資対象とする外国籍の投資信託証券の投資顧問会社（副投資顧問会社を含む）が選定した通貨を指します。

(ロ) 投資信託証券への投資にあたっては、原則として、別に定める投資信託証券（以下「指定投資信託証券」といいます。）に投資を行うことを基本とします。なお、指定投資信託証券は見直されることがあり、この際、指定投資信託証券として指定されていた投資信託証券が指定から外れる場合や、新たな投資信託証券が指定投資信託証券として指定される場合があります。

「指定投資信託証券」とは次のものをいいます。

1. ルクセンブルク籍会社型投資信託  
「アムンディ・インターインベスト-リート・欧州（選定通貨、12シェアクラス）」
2. 国内籍投資信託  
「CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）」

(ハ) 不動産投資信託証券を主要投資対象とする投資信託証券への投資比率は、原則として90%以上とすることを基本とします。

(ニ) 指定投資信託証券は、委託会社の判断により、変更されることがあります。

(ホ) 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

#### 〔投資対象ファンドの選定方針〕

委託会社は、アムンディで運用される欧州のリートを主要投資対象とするファンドとアムンディ・ジャパン株式会社が運用するマネーファンドを選定します。

選定にあたっては、下記の点を選定のポイントとします。

1. 投資対象ファンドの運用目的・運用方針が各ファンドの運用目的・運用方針に合致していること。
2. 投資対象ファンドにおいて運用体制およびプロセス・リスク管理・情報開示が明確および適切に行われていること。
3. 投資対象ファンドまたはその運用者がその投資対象資産における運用において必要な運用実績があること。
4. 各ファンドが投資対象ファンドを売買する場合、その決済が適切に行われること。

## (2)【投資対象】

投資の対象とする資産の種類（本邦通貨表示のものに限ります。）

1. 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）

- イ 有価証券
- ロ 金銭債権
- ハ 約束手形

2. 次に掲げる特定資産以外の資産  
為替手形

投資対象とする有価証券

ファンドは、主として指定投資信託証券および次に掲げる有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することができます。

- (a) コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等
- (b) 外国または外国の者の発行する証券または証書で、(a)の証券の性質を有するもの
- (c) 国債証券、地方債証券、特別の法律により設立された法人の発行する債券および社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券および短期社債等を除きます。）
- (d) 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）
- (e) 外国法人が発行する譲渡性預金証書

投資対象とする金融商品

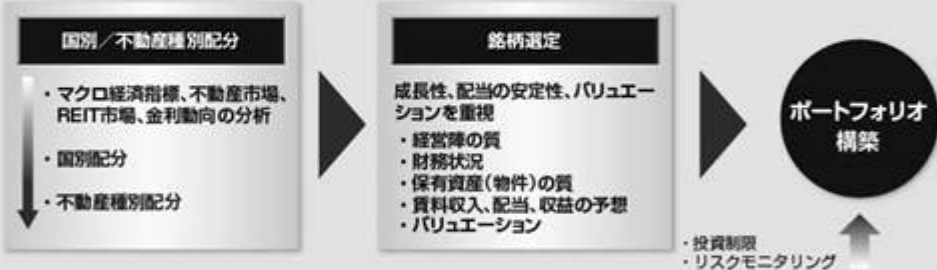
委託会社は、信託金を、前記 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

- (a) 預金
- (b) 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託を除きます。）
- (c) コール・ローン
- (d) 手形割引市場において売買される手形
- (e) 外国の者に対する権利で(d)の権利の性質を有するもの

前記 にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を前記 の(a)から(e)までに掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

委託会社は、法令・規則等で認められる範囲で信託金を委託会社の関係会社が発行する有価証券により運用することを指図することができます。また、委託会社は、信託金による有価証券その他の資産の取得を委託会社の関係会社から行うことを指図することができます。

## ■各ファンドが投資対象とする投資信託の概要

外国籍投資信託	
ファンド名	アムンディ・インター・インベストリート・欧州(選定通貨、I2シェアクラス)
ファンドの形態	ルクセンブルク籍会社型投資信託(円建)
ファンドの特色	欧州の不動産投資信託証券を主要投資対象とし、インカムゲインの確保と投資信託財産の中長期的な成長を図ることを目的として運用を行います。
投資方針	<p>1) 投資対象</p> <p>①欧州の不動産投資信託証券を主要投資対象とします。</p> <p>②外国為替予約取引、為替先渡取引、直物為替先渡取引等を活用します。</p> <p>2) 投資態度</p> <p>①欧州の金融商品取引所に上場(これに準ずるものを含みます。)されている不動産投資信託証券を主要投資対象とします。その他、不動産関連株式にも投資します。</p> <p>②原則として、ユーロ建以外の資産に投資する場合、対ユーロで為替取引を行います。</p> <p>③アムンディ・インター・インベストリート・欧州(選定通貨、I2シェアクラス)は、実質的なユーロ建資産を原則として選定通貨*で為替取引を行います。</p> <p>*原則として、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・ブロードおよびJPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・ブロードの構成国通貨の中から金利、流動性、ファンダメンタル等を勘案し、5通貨程度を選定します。選定通貨は、定期的に見直しを行います。</p> <p>④資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。</p>
運用プロセス	
投資顧問会社	アムンディ・アセット・マネジメント
副投資顧問会社	アムンディ・ジャパン株式会社

\*JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・ブロードおよびJPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・ブロードは、J.P.Morgan Securities LLCが公表している、現地通貨建の世界主要国の債券、現地通貨建の新興国の債券をそれぞれ対象としたインデックスであり、その著作権等は同社に帰属します。

国内籍投資信託	
ファンド名	CAマネー・プール・ファンド(適格機関投資家専用)
ファンドの形態	日本籍契約型投資信託(円建)
ファンドの特色	主として本邦通貨表示の短期公社債に投資し、安定した収益の確保を目指して運用を行うとともに、あわせてコール・ローンなどで運用を行うことで流動性の確保を図ります。
委託会社	アムンディ・ジャパン株式会社
受託会社	株式会社りそな銀行

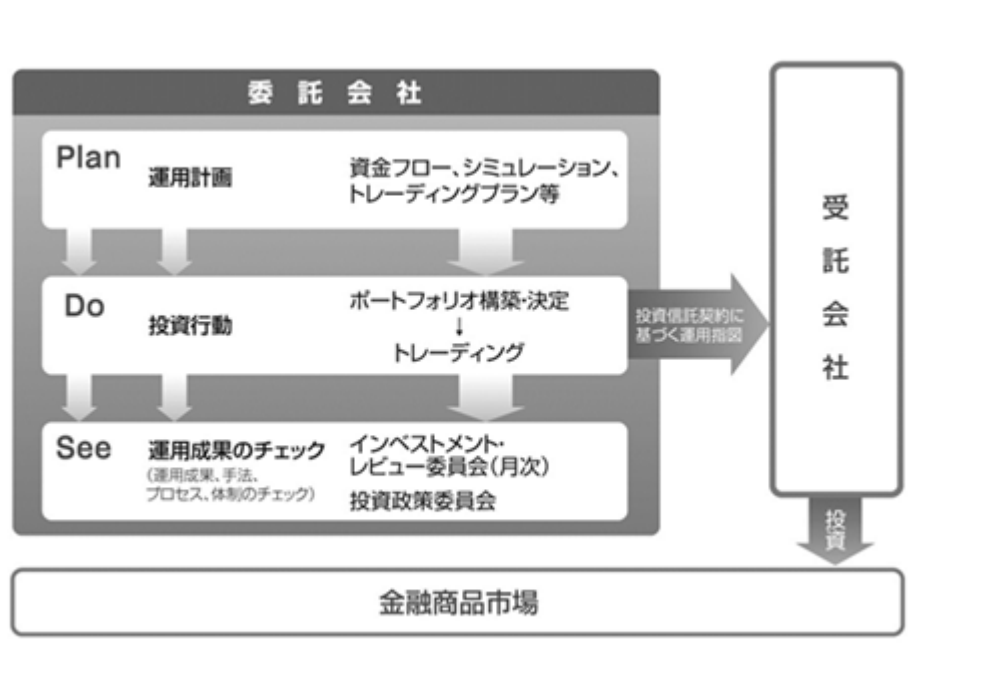
\*上記内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。

資金動向および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

## (3) 【運用体制】

委託会社の運用体制は、運用本部所属のファンド・マネージャーがファンドの運用指図を行う体制となっています。

ファンドの運用体制は以下のとおりとなっております。



\* 委託会社の運用成果のチェック・・・インベストメント・レビュー委員会（8名以上）、投資政策委員会（3名以上）

ファンドの運用を行うに当たっての社内規定

- ・コンプライアンス・マニュアル
- ・サービス規程
- ・リスク管理基本規程
- ・デリバティブ取引に関するリスク管理規則
- ・運用にかかる各種マニュアル

関係法人に関する管理体制

受託会社・・・年1回以上、ミーティングまたは内部統制報告書に基づくレビューを実施

ファンドの運用体制等は本書作成日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

(4) 【分配方針】

収益分配方針

< 毎月決算型 >

毎決算時（原則として毎月25日。休業日の場合は翌営業日。）に、原則として次のとおり収益分配を行う方針です。

(a) 分配対象額

分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。

(b) 分配対象額についての分配方針

分配金額は、委託会社が基準価額水準および市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。したがって、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

(c) 留保益の運用方針

留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

< 年2回決算型 >

毎決算時（原則として毎年2月25日および8月25日。休業日の場合は翌営業日。）に、原則として次のとおり収益分配を行う方針です。

(a) 分配対象額

分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。

(b) 分配対象額についての分配方針

分配金額は、委託会社が基準価額水準および市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。したがって、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

(c) 留保益の運用方針

留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

収益の分配< 毎月決算型 / 年2回決算型共通 >

1) 投資信託財産から生じる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。

( ) 投資信託財産に属する配当等収益（配当金、利子およびこれらに類する収益から支払利息を控除した額をいいます。以下同じ）から、諸経費、信託報酬および当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除した後、その残額を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金に充てるため、その一部を分配準備積立金として積立てることができます。

( ) 売買損益に評価損益を加減して得た利益金額（以下「売買益」といいます）は、諸経費、信託報酬および当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配に充てるため、分配準備積立金として積立てることができます。

2) 毎計算期末において、投資信託財産につき生じた損失は、次期に繰越します。

収益分配金の支払< 毎月決算型 / 年2回決算型共通 >

1) 収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にか

かる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払以前のために販売会社名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日から支払います(決算日(休業日の場合は翌営業日)から起算して、原則として5営業日までに支払いを開始します)。

- 2) 上記1)の規定にかかわらず、別に定める契約(自動けいぞく投資契約)に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、受託会社が委託会社の指定する預金口座等に払込むことにより、原則として毎計算期間終了日の翌営業日に収益分配金が販売会社に交付されます。この場合、販売会社は受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資にかかる受益権の取得申込みに応じるものとします。再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。
- 3) 上記1)に規定する収益分配金の支払は、販売会社の営業所等において行うものとします。
- 4) 受益者が、収益分配金について上記1)に規定する支払開始日から5年間その支払を請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

#### (5)【投資制限】

投資信託約款に基づく投資制限

- (イ) 投資信託証券への投資割合には制限を設けません。
- (ロ) 外貨建資産への直接投資は行いません。
- (ハ) デリバティブの直接利用は行いません。
- (ニ) 株式(新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。)への直接投資は行いません。
- (ホ) 同一銘柄の投資信託証券への投資割合には制限を設けません。ただし、当該投資信託証券が一般社団法人投資信託協会規則に定めるエクスポージャーがルックスルーできる場合に該当しないときは、当該投資信託証券への投資は、投資信託財産の純資産総額の10%以内とします。
- (ヘ) 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの投資信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ10%、合計で20%を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則の定めるところにしたがい当該比率以内になるよう調整を行うこととします。
- (ト) 資金の借入れの制限
  - 1) 委託会社は、投資信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。)を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
  - 2) 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から投資信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から投資信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から投資信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、有価証券等の解約代金および有価証券等の償還金の合計額を限度とします。

- 3) 収益分配金の再投資にかかる借入期間は投資信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- 4) 借入金の利息は投資信託財産中より支弁します。

### 3【投資リスク】

#### (1) 基準価額の変動要因

各ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主としてリートなど値動きのある有価証券（外貨建資産には為替変動リスクがあります）に実質的に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。各ファンドの基準価額の下落により、損失を被り投資元本を割込むことがあります。各ファンドの運用による損益はすべて投資者に帰属します。なお、投資信託は預貯金とは異なります。

#### リーートの価格変動リスク

各ファンドが主要投資対象とする外国籍投資信託は、主に欧州のリーートを投資対象としています。リートは、株式と同様に金融商品取引所等で売買され、その価格および配当は、不動産市況に対する見通し、市場における需給、金利、リーートの収益および財務内容の変動、リートに関する税制、会計制度等の変更等、様々な要因で変動します。当該リーートの価格が下落した場合には、各ファンドの基準価額も下落し、損失を被り投資元本を割込むことがあります。

#### 為替変動リスク

- ・各ファンドの主要投資対象である外国籍投資信託は、実質的にユーロ建資産に投資し、原則としてユーロ売り、取引対象通貨買いの為替取引を行います。そのため、各ファンドは円に対する取引対象通貨の為替変動の影響を受け、取引対象通貨の為替相場が円高方向に進んだ場合には、各ファンドの基準価額は下落し、損失を被り投資元本を割込むことがあります。また、為替取引を行う際に実質的なユーロ建資産額と為替取引額を一致させることはできませんので、基準価額は主に円に対するユーロの為替変動の影響を受ける場合があります。なお、為替取引を行う際に取引対象通貨の金利がユーロ金利より低い場合、ユーロと取引対象通貨との金利差相当分の費用（為替取引によるコスト）がかかることにご留意ください。
- ・一部の取引対象通貨については、外国籍投資信託においてNDF取引（ノン・デリバブル・フォワード、直物為替先渡取引）を用いて為替取引を行います。NDF取引による価格は需給や当該通貨に対する期待等により、金利差から想定される為替取引の価格と大きく乖離し、当該金利差から想定される期待収益性と運用成果が大きく異なる場合があります。

NDF取引とは、現物通貨の取引規制が厳しい通貨や為替市場が未成熟な通貨の為替取引を行う場合に、あらかじめ約定したNDFレートと満期時の直物為替レートとの差から計算される差金のみをユーロまたはその他主要通貨で決済する相対取引です。

#### 流動性リスク

各ファンドに対して短期間で大量の換金の申込があった場合には、各ファンドの主要投資対象である外国籍投資信託において、組入有価証券の売却および為替取引の解消を行いますが、リートおよび為替市場の特性から市場において十分な流動性が確保できない場合があります。その場合には市場実勢から想定される妥当性のある価格での組入有価証券の売却および為替取引の解消が出来ない場合、あるいは当該換金に十分対応する金額の組入有価証券の売却および為替取引の解消が出来ない場合があります。この場合、各ファンドの基準価額の下落要因となり、損失を被り投資元本を割込むことがあります。

#### 信用リスク

- ・各ファンドが実質的に投資するリートや主要投資対象の外国籍投資信託が行う為替取引等の取引相手方等の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化を含む信用状況等の悪化という事態は信用リスクの上昇を招くことがあり、その場合には実質的に投資するリーートの価格の下落および為替取引等に障害が生じ、不測のコスト上昇等を招くことがあります。この場合、各ファンドの基準価額の下落要因となり、損失を被り投資元本を割込むことがあります。



- ・リートおよび為替取引等の取引相手方が破産した場合は、投資資金の全部あるいは一部を回収できなくなることがあります。その結果、各ファンドの基準価額が下落し、損失を被り投資元本を割込むことがあります。

基準価額の変動要因（投資リスク）は上記に限定されるものではありません。

## (2) その他の留意点

### 各ファンドの繰上償還

各ファンドの純資産総額が10億円を下回った場合等には、信託を終了させることがあります。

### 換金の中止

金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情が発生したときは、解約請求の受付が中止されることがあります。

### 分配金に関する留意点

- ・分配金は当該期に各ファンドが得る配当等収益、売買益、評価益を超えて支払われることがあり、投資者の各ファンドの購入価額によっては、分配金は実質的に元本からの払戻し部分を含むことになる場合があります。また、各ファンドの純資産は分配金支払い後に減少することになり、基準価額の下落要因となります。基準価額に対する分配金の支払率は各ファンドの収益率を示すものではありません。
- ・各ファンドは、毎決算時に、原則として収益分配方針に基づいて分配を行います。分配金額はあらかじめ確定しているものではなく、各ファンドの運用状況（基準価額水準および市場動向）等によっては分配を行わないこともあります。

### 規制の変更に関する留意点

- ・各ファンドの運用に関連する国または地域の法令、税制および会計基準等は今後変更される可能性があります。
- ・将来規制が変更された場合、各ファンドは重大な不利益を被る可能性があります。

### その他

- ・前記以外にも、組入有価証券の売買委託手数料、信託報酬、監査費用の負担およびこれらに対する消費税等の負担による負の影響が存在します。
- ・金融商品市場および外国為替市場は、世界的な経済事情の急変またはその国における天災地変、政変、経済事情の変化もしくは政策の変更等の諸事情により閉鎖されることや不測の事態に陥ることがあります。この場合、各ファンドの運用が影響を被って基準価額が下落することがあり、その結果、投資元本を下回る可能性があります。基準価額の正確性に合理的な疑いがあると判断した場合、委託会社は途中換金の受付を一時的に中止することがあります。
- ・投資環境の変化などにより、継続申込期間の更新を行わないことや、お申込みの受付を停止することがあります。この場合は、新たに各ファンドを購入できなくなります。

## 投資信託と預金および預金等保護制度との関係について

投資信託は、金融機関の預金とは異なります。

投資信託は、預金保険の対象および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関を通じてご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。

## (3) 投資信託についての一般的な留意事項

投資信託は、その商品の性格から次の特徴をご理解のうえご購入くださいますようお願い申し上げます。

- ・投資信託の設定・運用は投資信託委託会社が行います（第一種金融商品取引業者・登録金融機関は販売の窓口となります）。

- ・投資信託は値動きのある証券(外貨建資産には為替変動リスクによる影響があります)に投資するため、投資元本および分配金が保証された商品ではありません。
- ・投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客さまが負うことになります。
- ・投資信託のご購入時にはお申込手数料、保有期間中には信託報酬およびその他費用等がかかります。
- ・投資信託のお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

#### (4) リスク管理体制

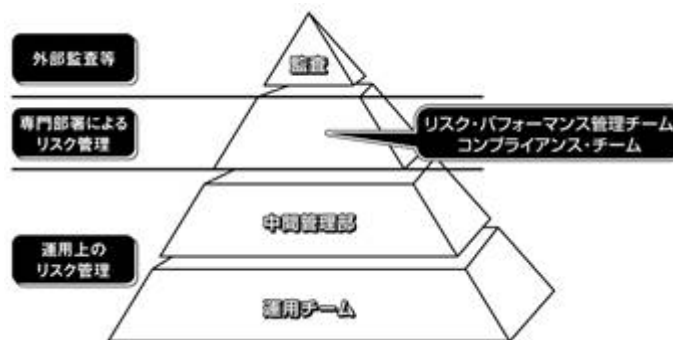
委託会社では、以下のように2段階でリスクのモニタリングおよび管理を行います。

- ・運用パフォーマンスの評価・分析  
リスクマネジメント部が運用リスク全般の状況をモニタリングするとともに、運用パフォーマンスの分析および評価を行い、定期的にリスク委員会に報告します。
- ・運用リスクの管理  
リスクマネジメント部が法令諸規則および運用ガイドライン等の遵守状況のモニタリングを行い、運用状況を検証および管理し、定期的にリスク委員会に報告します。また、コンプライアンス部は運用に関連する社内規程、関連法規の遵守にかかる管理を行っており、重大なコンプライアンス事案については、コンプライアンス委員会で審議が行われ必要な方策を講じます。

前述のリスク管理過程について、グループ監査および内部監査部門が事後チェックを行います。

#### - 「アムンディ・インターインベスト-リート・欧州」のリスク管理について -

各ファンドの指定投資信託証券の投資顧問会社であるアムンディ アセットマネジメントのリスクモニターおよびリスク管理体制は次の3段階で行っています。



## リスク管理

### 運用上のリスク管理

運用チームは、中間管理部とともに、多数のツールを活用し、市場データやポートフォリオ分析、実際のポートフォリオのポジション流動性、パフォーマンスのモニタリング、リスク試算等を行います。モニタリングだけでなく、ポートフォリオ対規約規制、顧客の指定規約や社内規程の遵守状況の確認を行います。

### 専門部署によるリスク管理

リスク・パフォーマンス管理チームは、社内規制のモニタリングとして、市場リスク、発行体信用リスクおよび運用監査の3項目のチェックを行います。ファンド・マネージャーとは別のレポートラインを持ち、投資決定での独立性が確保されます。また、コンプライアンス・チームは社内外の法令遵守等についてのチェックを行います。

### 外部監査等

クレディ・アグリコル エス・エー（アムンディ アセットマネジメントの母体）およびアムンディ アセットマネジメントの独立した監査チームが、適切な業務遂行とリスク管理システムの適切性の調査を随時行います。

ファンドのリスク管理体制等は本書作成日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

## (参考情報)

## ①ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移

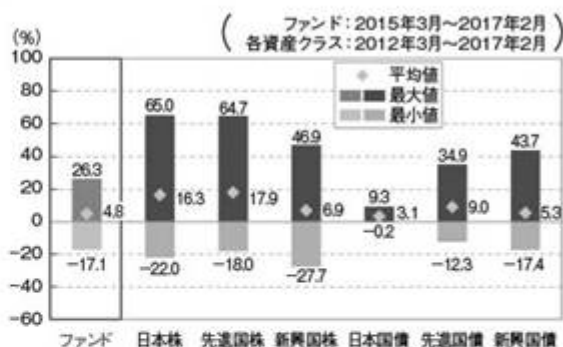
## &lt;毎月決算型&gt;



## &lt;年2回決算型&gt;



## ②ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- \*①の各グラフは年間騰落率(各月末における直近1年間の騰落率)および分配金再投資基準価額の推移を表示したものです。
- \*②の各グラフは、ファンドについては2015年3月から2017年2月までの年間騰落率(各月末における直近1年間の騰落率)の平均・最大・最小を表示したものです。他の代表的な資産クラスについては2012年3月から2017年2月までの5年間の年間騰落率の平均・最大・最小を表示したものです。
- \*年間騰落率および分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率および基準価額の推移とは異なる場合があります。
- \*②の各グラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものであり、全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

## ○各資産クラスの指数について

## 日本株 東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

東証株価指数(TOPIX)とは、東京証券取引所第一部に上場している全銘柄を対象として算出した指数で、TOPIXの指数値およびTOPIXの商標は東京証券取引所の知的財産であり、同指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利およびTOPIXの商標に関するすべての権利は、東京証券取引所が有します。東京証券取引所は、TOPIXの指数値の算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの指数値の算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有します。

## 先進国株 MSCIコクサイ・インデックス(税引後配当込み、円ベース)

MSCIコクサイ・インデックスとは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有します。

## 新興国株 MSCIエマージング・マーケット・インデックス(税引後配当込み、円ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックスとは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有します。

## 日本国債 NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債とは、野村證券株式会社が公表する、国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。

## 先進国債 シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はCitigroup Index LLCに帰属します。また、Citigroup Index LLCは同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有します。

## 新興国債 JPMオルガンGBI-EMグローバルレディバースファイド(円ベース)

JPMオルガンGBI-EMグローバルレディバースファイドとは、J.P.Morgan Securities LLCが算出し公表している、現地通貨建てのエマージング・マーケット債で構成されている指数です。同指数の著作権はJ.P.Morgan Securities LLCに帰属します。

(注)海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。

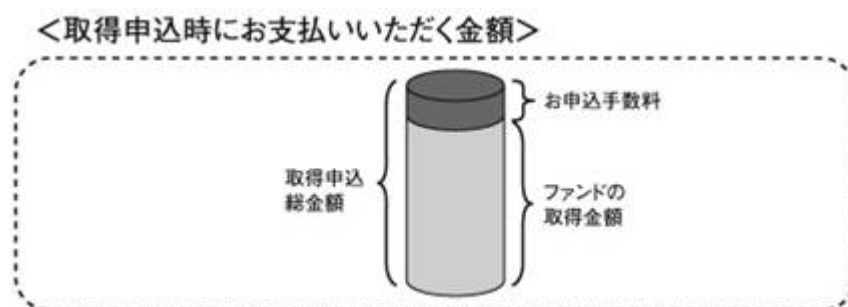
## 4【手数料等及び税金】

## (1)【申込手数料】

申込手数料は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額に、販売会社が独自に定める料率を乗じて得た金額とします。

料率上限 (本書作成日現在)	役務の内容
3.24% (税抜3.0%)	商品や関連する投資環境の説明および情報提供等、ならびに購入に関する事務コストの対価として販売会社にお支払いいただきます。

ただし、「自動けいぞく投資コース」で収益分配金を再投資する場合には、無手数料となります。申込手数料については、販売会社によって異なりますので、お申込みの販売会社にお問合せください。



販売会社によっては「スイッチング」（ある投資信託の換金による手取額をもって、他の投資信託を買付けること）によるファンドの取得申込みを取扱う場合があります。スイッチングは、販売会社でお買付いただいた投資信託のうち、販売会社が指定するものとの間で可能です。スイッチングの際には、購入時および換金時と同様に、費用・税金がかかる場合があります。スイッチングのお取扱い内容は販売会社によって異なりますので、ご注意ください。

スイッチングの取扱い等についての詳細は、販売会社にお問合せください。

## (2)【換金（解約）手数料】

換金（解約）手数料はありません。

## (3)【信託報酬等】

信託報酬の総額は、投資信託財産の純資産総額に対し年率1.3446%（税抜1.245%）を乗じて得た金額とし、各ファンドの計算期間を通じて毎日、費用計上されます。

【信託報酬の配分】		(年率)
支払先	料率	役務の内容
委託会社	0.465% (税抜)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等の対価
販売会社	0.75% (税抜)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
受託会社	0.03% (税抜)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの指図の実行等の対価

信託報酬は、委託会社が定める時期または信託終了のときに投資信託財産中から支弁します。なお、信託報酬の販売会社への配分は、販売会社の行う業務に対する代行手数料であり、委託会社がいったん投資信託財産から収受した後、販売会社に支払います。ファンドは、主として投資信託証券に投資するファンド・オブ・ファンズです。上記信託報酬の他に、投資対象となる投資信託証券ごとに信託報酬がかかります。各ファンドが投資する指定投資信託証券の報酬の上限額は、それぞれの運用資産の純資産総額に対し下記の報酬率を乗じて得た額となります。

各ファンドが投資対象とする 指定投資信託証券	信託報酬	役務の内容
「アムンディ・インターインベスト -リート・欧州」 (選定通貨、12シェアクラス)	年率0.51%	投資信託財産の 運用・管理等の 対価
「CAマネープールファンド (適格機関投資家専用)」	年率0.378%（税抜0.35%）以内 各月毎に決定するものとし、前月の最終営業日の翌日から当月の最終営業日までの信託報酬率は、各月の前月の最終5営業日における無担保コール翌日物レートの平均値に0.3を乗じて得た率（以下「当該率」といいます）に応じて次に掲げる率とします。 1. 当該率が0.35%以下の場合：当該率（当該率が、委託会社が任意に定める率以下の場合、任意に定める率とします。ただし、任意に定める率は0.05%以下とします。） 2. 当該率が0.35%超の場合：年10,000分の35	

したがって、当該信託報酬を考慮した場合のファンドの実質的な信託報酬率の上限は、年率1.8546%（税込）となります。

各ファンドの信託報酬年率1.3446%（税込）に投資対象とする投資信託証券のうち信託報酬が最大のもの（年率0.51%）を加算しております。各ファンドの実際の投資信託証券の組入状況等によっては、実質的な信託報酬率は変動します。

上記の信託報酬等は、本書作成日現在のものです。

(4) 【その他の手数料等】

投資信託財産に関する租税、信託事務の処理等に要する諸費用（監査費用、特定資産の価格等の調査に要する諸費用、法律顧問・税務顧問への報酬、目論見書・運用報告書等の印刷費用、有価証券届出書関連費用、郵送費用、公告費用、格付費用、受益権の管理事務に関連する費用等およびこれらの諸費用にかかる消費税等に相当する金額を含みます。）および受託会社の立替えた立替金の利息（以下「諸経費」といいます。）は、投資者の負担とし、投資信託財産中から支弁することができます。

委託会社は、前記の信託事務の処理等に要する諸費用の支払いを投資信託財産のために行い、支払金額の支弁を投資信託財産から受けることができます。この場合、委託会社は、現に投資信託財産のために支払った金額の支弁を受けの際に、あらかじめ受領する金額に上限を付することができます。また、委託会社は、実際に支払う金額の支弁を受ける代わりに、かかる諸費用の金額をあらかじめ合理的に見積もったうえで、実際の費用額にかかわらず固定率または固定金額にて投資信託財産からその支弁を受けることができます。この場合、委託会社は投資信託財産の規模等を考慮して、信託の設定時または期中にあらかじめ定めた範囲内でかかる上限、固定率または固定金額を変更することができます。

前記においての信託事務の処理等に要する諸費用の固定率または固定金額を定める場合、かかる費用の額は計算期間を通じて毎日、投資信託財産の純資産総額に応じて計算し、委託会社の定める時期または信託終了のとき当該消費税等相当額とともに投資信託財産中より支弁します。

組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料は、投資信託財産が負担します。このほかに、売買委託手数料に対する消費税等相当額およびコール・ローンの取引等に要する費用ならびに外国における資産の保管等に要する費用についても投資信託財産が負担します。投資信託財産の金融商品取引等に伴う手数料や税金は投資信託財産が負担しますが、売買委託手数料等は国や市場によって異なります。また、売買金額によっても異なります。当該諸費用は運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することはできません。

投資信託証券においてはルクセンブルクの年次税（年率0.01%）のほか、管理費用、受託費用、監査費用および有価証券売買委託手数料等がかかります。

その他の手数料等の合計額は、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することはできません。

各ファンドの費用の合計額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することはできません。

## (5)【課税上の取扱い】

日本の居住者である受益者に対する課税上の取扱いは、平成29年2月末現在の内容に基づいて記載しており、税法が改正された場合等には、以下の内容および本書における税制に関する記載内容が変更になることがあります。ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。

## 個人の受益者に対する課税

○収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金は配当所得として下記の税率により源泉徴収されます。

なお、原則として申告分離課税<sup>1</sup>または総合課税により確定申告を行う必要がありますが申告不要制度を選択することができます。

○換金時および償還時における差益は譲渡所得等となり、下記の税率による申告分離課税<sup>1</sup>が適用され、確定申告が必要となります。ただし、特定口座（源泉徴収選択口座）を利用している場合は、下記の税率により源泉徴収が行われ、原則として、確定申告は不要となります。

税率	20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315% <sup>2</sup> 、地方税5%）
----	---

1 申告分離課税を選択した場合において、上場株式等の譲渡損失の金額がある場合には、上場株式等の配当所得（収益分配金を含みます。）と当該上場株式等の譲渡損失（解約損、償還損を含みます。）の損益通算（特定公社債等（公募公社債投資信託を含みます。）の利子所得等および譲渡所得等も対象となります。）をすることができます（当該上場株式等の配当所得の金額を限度とします。）。なお、損益通算してもなお控除しきれない損失の金額については、翌年以降3年間にわたり繰越控除が可能です。

2 平成49年12月31日までは、復興特別所得税（基準所得税額に対して2.1%を乗じて得た金額）が加算されます。

（注）ファンドは、配当控除は適用されません。

\* 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。また20歳未満の居住者などを対象とした同様の非課税措置（ジュニアNISA）もあります。なお、他の口座で生じた配当所得や譲渡所得との損益通算はできません。詳しくは、販売会社にお問合せください。

## 法人の受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに換金時および償還時の個別元本超過額について、下記の税率により源泉徴収されます（地方税の源泉徴収はありません。）。

源泉徴収された税金は、所有期間に応じて税額控除が適用されます。

税率	15.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%）
----	-------------------------------

平成49年12月31日までは、復興特別所得税（基準所得税額に対して2.1%を乗じて得た金額）が加算されます。

（注）ファンドは、益金不算入制度は適用されません。

## 個別元本について

- 1) 追加型の株式投資信託について、受益者ごとの取得申込時のファンドの価額等（申込手数料は含まれません。）が受益者の元本（個別元本）に当たります。
- 2) 受益者が同一ファンドを複数回取得した場合の個別元本は、受益者が追加信託を行うつど、その受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。
- 3) 同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合には販売会社ごとに、個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドを取得す



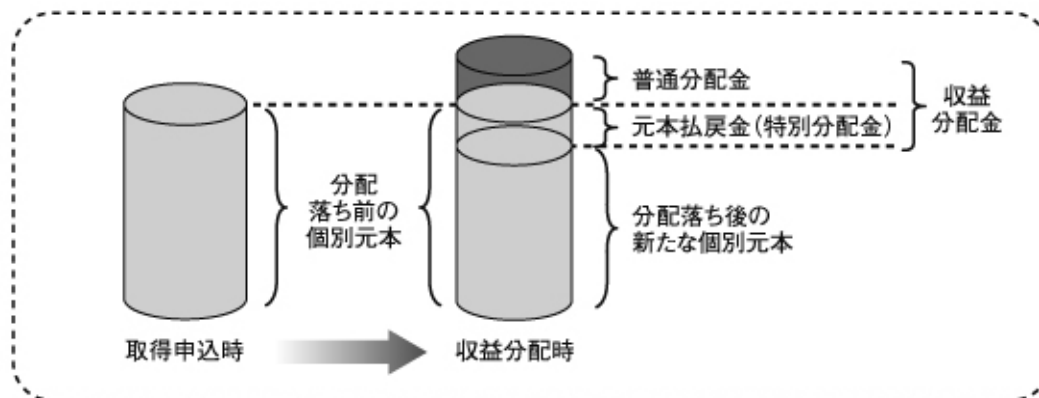
る場合は支店等ごとに、「一般コース」と「自動けいぞく投資コース」とがあり、両コースで取得する場合はコース別に、個別元本の算出が行われる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。

- 4) 受益者が元本払戻金(特別分配金)を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の個別元本となります。  
「元本払戻金(特別分配金)」については、後記「収益分配金の課税について」をご参照ください。

#### 収益分配金の課税について

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」(受益者ごとの元本の一部払戻しに相当する部分)の区分があります。

受益者が収益分配金を受け取る際、収益分配金落ち後の基準価額が受益者の個別元本と同額の場合または受益者の個別元本を上回っている場合には、収益分配金の全額が普通分配金となり、収益分配金落ち後の基準価額が受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、収益分配金から前記元本払戻金(特別分配金)を控除した額が普通分配金となります。なお、受益者が元本払戻金(特別分配金)を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の受益者の個別元本となります。



上図は収益分配金のイメージ図であり、収益分配金の支払いおよびその水準を保証するものではありません。

課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認ください。

## 5【運用状況】

以下は平成29年2月末日現在の運用状況です。

また、投資比率は、小数点以下第3位を切捨てて表示しているため、当該比率の合計と合計欄の比率が一致しない場合があります。

## (1)【投資状況】

信託財産の構成

「アムンディ・欧州リート・ファンド（高金利通貨戦略コース）＜毎月決算型＞」

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	日本	9,991	0.06
投資証券	ルクセンブルク	13,881,764	96.22
現金・預金・その他の資産（負債控除後）		535,231	3.70
合計（純資産総額）		14,426,986	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価合計比率をいいます。以下同じ。

「アムンディ・欧州リート・ファンド（高金利通貨戦略コース）＜年2回決算型＞」

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	日本	9,991	0.57
投資証券	ルクセンブルク	1,683,668	97.21
現金・預金・その他の資産（負債控除後）		38,204	2.20
合計（純資産総額）		1,731,863	100.00

## (2)【投資資産】

## 【投資有価証券の主要銘柄】

「アムンディ・欧州リート・ファンド（高金利通貨戦略コース）＜毎月決算型＞」

順位	国/地域	種類	銘柄名	口数	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
1	ルクセンブルク	投資証券	アムンディ・インターインベストリート・欧州(選定通貨、I2シェアクラス)	1,300.765	10,759.00	13,994,930	10,672.00	13,881,764	96.22
2	日本	投資信託 受益証券	CAマネープールファンド(適格機関投資家専用)	9,925	1.0067	9,991	1.0067	9,991	0.06

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価額比率をいいます。以下同じ。

「アムンディ・欧州リート・ファンド（高金利通貨戦略コース）＜年2回決算型＞」

順位	国/地域	種類	銘柄名	口数	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
1	ルクセンブルク	投資証券	アムンディ・インターインベストリート・欧州(選定通貨、I2シェアクラス)	157.765	10,759.00	1,697,393	10,672.00	1,683,668	97.21
2	日本	投資信託 受益証券	CAマネープールファンド(適格機関投資家専用)	9,925	1.0067	9,991	1.0067	9,991	0.57

## 種類別投資比率

## 「アムンディ・欧州リート・ファンド（高金利通貨戦略コース）＜毎月決算型＞」

国内/外国	種類	投資比率(%)
国内	投資信託受益証券	0.06
外国	投資証券	96.22
合計		96.29

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該種類の評価額比率をいいます。以下同じ。

## 「アムンディ・欧州リート・ファンド（高金利通貨戦略コース）＜年2回決算型＞」

国内/外国	種類	投資比率(%)
国内	投資信託受益証券	0.57
外国	投資証券	97.21
合計		97.79

## 【投資不動産物件】

該当事項はありません。

## 【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

## (3) 【運用実績】

## 【純資産の推移】

平成29年2月末日及び同日前1年以内における各月末ならびに下記の特定期間末又は計算期間末の純資産の推移は次の通りです。

## 「アムンディ・欧州リート・ファンド（高金利通貨戦略コース）＜毎月決算型＞」

期間	純資産総額 (分配落)(円)	純資産総額 (分配付)(円)	1口当たり 純資産額 (分配落)(円)	1口当たり 純資産額 (分配付)(円)
第1特定期間末（平成26年 8月25日）	1,192,795	1,192,795	1.1928	1.1928
第2特定期間末（平成27年 2月25日）	1,364,543	1,364,543	1.3645	1.3645
第3特定期間末（平成27年 8月25日）	1,144,999	1,144,999	1.1450	1.1450
第4特定期間末（平成28年 2月25日）	1,624,894	1,657,826	0.9868	1.0068
第5特定期間末（平成28年 8月25日）	21,743,496	22,144,725	1.0838	1.1038
第6特定期間末（平成29年 2月27日）	14,283,797	14,564,024	1.0194	1.0394
平成28年 2月末日	1,714,544	-	1.0268	-
3月末日	2,076,478	-	1.1355	-
4月末日	5,497,430	-	1.1235	-
5月末日	5,919,573	-	1.1071	-
6月末日	16,697,198	-	1.0449	-
7月末日	17,960,425	-	1.1141	-
8月末日	21,826,358	-	1.0946	-
9月末日	21,536,806	-	1.0679	-
10月末日	11,717,551	-	1.0190	-

11月末日	11,743,713	-	0.9909	-
12月末日	13,063,346	-	1.0595	-
平成29年 1月末日	11,225,035	-	0.9844	-
2月末日	14,426,986	-	1.0115	-

(注) 純資産総額(分配付)及び1口当たり純資産額(分配付)は、各特定期間の最終計算期間に係る収益分配金のみを含んでおります。

「アムンディ・欧州リート・ファンド(高金利通貨戦略コース) <年2回決算型>」

期間	純資産総額 (分配落)(円)	純資産総額 (分配付)(円)	1口当たり 純資産額 (分配落)(円)	1口当たり 純資産額 (分配付)(円)
第1期計算期間末(平成26年 8月25日)	1,192,795	1,192,795	1.1928	1.1928
第2期計算期間末(平成27年 2月25日)	1,364,543	1,364,543	1.3645	1.3645
第3期計算期間末(平成27年 8月25日)	1,144,979	1,144,979	1.1450	1.1450
第4期計算期間末(平成28年 2月25日)	1,177,749	1,178,828	1.0912	1.0922
第5期計算期間末(平成28年 8月25日)	1,626,756	1,628,016	1.2903	1.2913
第6期計算期間末(平成29年 2月27日)	1,743,652	1,744,920	1.3747	1.3757
平成28年 2月末日	1,224,851	-	1.1358	-
3月末日	1,379,496	-	1.2792	-
4月末日	1,376,066	-	1.2741	-
5月末日	1,503,032	-	1.2735	-
6月末日	1,478,948	-	1.2073	-
7月末日	1,653,849	-	1.3104	-
8月末日	1,642,199	-	1.3028	-
9月末日	1,634,270	-	1.2949	-
10月末日	1,597,012	-	1.2641	-
11月末日	1,590,694	-	1.2559	-
12月末日	1,736,576	-	1.3701	-
平成29年 1月末日	1,643,762	-	1.2990	-
2月末日	1,731,863	-	1.3638	-

## 【分配の推移】

「アムンディ・欧州リート・ファンド（高金利通貨戦略コース）＜毎月決算型＞」

期間		1口当たり分配金（円）
第1特定期間	自 平成26年 3月14日 至 平成26年 8月25日	0.0000
第2特定期間	自 平成26年 8月26日 至 平成27年 2月25日	0.0000
第3特定期間	自 平成27年 2月26日 至 平成27年 8月25日	0.0000
第4特定期間	自 平成27年 8月26日 至 平成28年 2月25日	0.1000
第5特定期間	自 平成28年 2月26日 至 平成28年 8月25日	0.1200
第6特定期間	自 平成28年 8月26日 至 平成29年 2月27日	0.1200

(注) 1口当たり分配金は、各特定期間中の分配金単価の合計を表示しております。

「アムンディ・欧州リート・ファンド（高金利通貨戦略コース）＜年2回決算型＞」

期間		1口当たり分配金（円）
第1期計算期間	自 平成26年 3月14日 至 平成26年 8月25日	0.0000
第2期計算期間	自 平成26年 8月26日 至 平成27年 2月25日	0.0000
第3期計算期間	自 平成27年 2月26日 至 平成27年 8月25日	0.0000
第4期計算期間	自 平成27年 8月26日 至 平成28年 2月25日	0.0010
第5期計算期間	自 平成28年 2月26日 至 平成28年 8月25日	0.0010
第6期計算期間	自 平成28年 8月26日 至 平成29年 2月27日	0.0010

## 【収益率の推移】

「アムンディ・欧州リート・ファンド（高金利通貨戦略コース）＜毎月決算型＞」

期間		収益率(%)
第1特定期間	自 平成26年 3月14日 至 平成26年 8月25日	19.3
第2特定期間	自 平成26年 8月26日 至 平成27年 2月25日	14.4
第3特定期間	自 平成27年 2月26日 至 平成27年 8月25日	16.1
第4特定期間	自 平成27年 8月26日 至 平成28年 2月25日	5.1
第5特定期間	自 平成28年 2月26日 至 平成28年 8月25日	22.0
第6特定期間	自 平成28年 8月26日 至 平成29年 2月27日	5.1

(注1) 収益率は、各特定期間中の分配金単価の合計を加算して算出しております。

(注2) 収益率は以下の計算により算出しております。

特定期間末の基準価額（当該特定期間中の分配金累計額を加算した額）から当該特定期間の直

前の特定期間末の基準価額(分配落ちの額。以下「前特定期間末基準価額」)を控除した額を前特定期間末基準価額で除して得た数値に100を乗じて得た数値です。

ただし、第1特定期間については「前特定期間末基準価額」に代えて設定時の基準価額(10,000円)を用いております。

なお、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位まで表示しております。

「アムンディ・欧州リート・ファンド(高金利通貨戦略コース)<年2回決算型>」

期間		収益率(%)
第1期計算期間	自 平成26年 3月14日 至 平成26年 8月25日	19.3
第2期計算期間	自 平成26年 8月26日 至 平成27年 2月25日	14.4
第3期計算期間	自 平成27年 2月26日 至 平成27年 8月25日	16.1
第4期計算期間	自 平成27年 8月26日 至 平成28年 2月25日	4.6
第5期計算期間	自 平成28年 2月26日 至 平成28年 8月25日	18.3
第6期計算期間	自 平成28年 8月26日 至 平成29年 2月27日	6.6

(注)収益率は以下の計算式により算出しております。

$(\text{当該計算期間末分配付基準価額} - \text{当該計算期間の直前の計算期間末分配落基準価額}) \div (\text{当該計算期間の直前の計算期間末分配落基準価額}) \times 100$

ただし、第1期計算期間については「当該計算期間の直前の計算期間末分配落基準価額」に代えて設定時の基準価額(10,000円)を用いております。

なお、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位まで表示しております。

(4)【設定及び解約の実績】

「アムンディ・欧州リート・ファンド(高金利通貨戦略コース)<毎月決算型>」

期間	設定口数	解約口数	発行済口数
第1特定期間	自 平成26年 3月14日 至 平成26年 8月25日	1,000,000	1,000,000
第2特定期間	自 平成26年 8月26日 至 平成27年 2月25日		1,000,000
第3特定期間	自 平成27年 2月26日 至 平成27年 8月25日		1,000,000
第4特定期間	自 平成27年 8月26日 至 平成28年 2月25日	648,446	1,812
第5特定期間	自 平成28年 2月26日 至 平成28年 8月25日	19,821,539	1,406,674
第6特定期間	自 平成28年 8月26日 至 平成29年 2月27日	10,655,020	16,705,138

(注1)全て本邦内におけるものです。

(注2)第1特定期間の設定口数には、当初募集期間の設定口数を含みます。

「アムンディ・欧州リート・ファンド(高金利通貨戦略コース)<年2回決算型>」

期間	設定口数	解約口数	発行済口数
----	------	------	-------

第1期計算期間	自 平成26年 3月14日 至 平成26年 8月25日	1,000,000		1,000,000
第2期計算期間	自 平成26年 8月26日 至 平成27年 2月25日			1,000,000
第3期計算期間	自 平成27年 2月26日 至 平成27年 8月25日			1,000,000
第4期計算期間	自 平成27年 8月26日 至 平成28年 2月25日	79,287		1,079,287
第5期計算期間	自 平成28年 2月26日 至 平成28年 8月25日	187,584	6,154	1,260,717
第6期計算期間	自 平成28年 8月26日 至 平成29年 2月27日	16,393	8,710	1,268,400

(注1) 全て本邦内におけるものです。

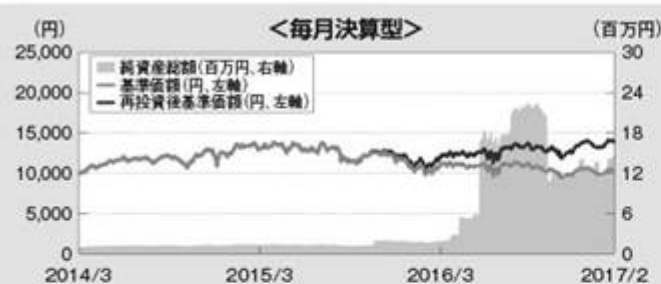
(注2) 第1期計算期間の設定口数には、当初募集期間の設定口数を含みます。

(参考情報)

## 運用実績

2017年2月末日現在

## 基準価額・純資産の推移



\*再投資後基準価額は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。  
\*基準価額の計算において信託報酬は控除しています。  
\*グラフの目盛はファンドごとに異なる場合があります。

## 分配の推移

＜毎月決算型＞

決算日	分配金
32期(2016年10月25日)	200円
33期(2016年11月25日)	200円
34期(2016年12月26日)	200円
35期(2017年1月25日)	200円
36期(2017年2月27日)	200円
直近1年間累計	2,400円
設定来累計	3,400円

＜年2回決算型＞

決算日	分配金
2期(2015年2月25日)	0円
3期(2015年8月25日)	0円
4期(2016年2月25日)	10円
5期(2016年8月25日)	10円
6期(2017年2月27日)	10円
設定来累計	30円

\*分配金は1万口当たり・税引前です。  
\*直近5期分を表示しています。

## 主要な資産の状況

## ◆資産配分

内訳	比率(%)	
	毎月決算型	年2回決算型
アムンディ・インターインベストリート・欧州(選定通貨、12シェアクラス)	96.22	97.22
CAマネーボールファンド(適格機関投資家専用)	0.07	0.58
現金等	3.71	2.21
合計	100.00	100.00

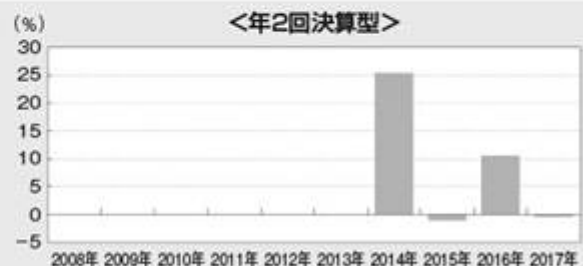
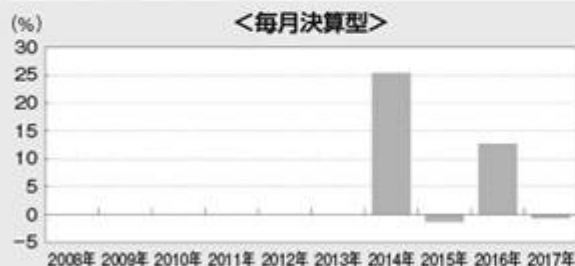
\*比率は各ファンドの純資産総額に対する割合です。  
\*現金等には未払諸費用等を含みます。  
\*四捨五入の関係で合計が100.00%とならない場合があります。

## ◆組入上位10銘柄 (アムンディ・インターインベストリート・欧州)

	銘柄名	国	資産	業種	比率(%)
1	UNIBAIL RODAMCO-AMSTERDAM	フランス	リート	店舗用不動産	8.95
2	KLEPIERRE	フランス	リート	店舗用不動産	8.60
3	VONOVIA SE	ドイツ	株式	不動産運営会社	8.56
4	DEUTSCHE WOHNEN AG	ドイツ	株式	不動産運営会社	7.79
5	LAND SECURITIES GRP	イギリス	リート	各種不動産	6.06
6	GECINA	フランス	リート	各種不動産	4.56
7	ALSTRIA OFFICE AG	ドイツ	リート	オフィス不動産	4.54
8	WERELDHAVE	オランダ	リート	店舗用不動産	4.18
9	HAMMERSON PLC	イギリス	リート	店舗用不動産	3.88
10	COFINIMMO	ベルギー	リート	各種不動産	3.67

\*比率は、アムンディ・インターインベストリート・欧州の純資産総額に対する割合です。

## 年間収益率の推移



\*年間収益率は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。  
\*ファンドにはベンチマークはありません。  
\*2014年は設定日(3月14日)から年末まで、2017年は年初から2月末日までの騰落率を表示しています。

※上記の運用実績は、過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。  
※運用実績等については、表紙に記載の委託会社ホームページにおいて閲覧することができます。



## 第2【管理及び運営】

お取扱いの各ファンド、購入・換金のお申込みの方法ならびに単位および分配金のお取扱い等について、販売会社によって異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。

### 1【申込（販売）手続等】

(1) 販売会社は、申込期間中の販売会社の営業日において、各ファンドの募集・販売の取扱いを行います。ただし、申込受付不可日（ユーロネクストの休業日、フランスの祝休日、ルクセンブルクの銀行休業日のいずれかに該当する場合、または12月24日）にあたる場合には、取得申込みの受付は行いません。

各ファンドの取得申込者は、販売会社取引口座を開設のうえ、販売会社に対し各ファンドの取得申込みと同時にまたはあらかじめ当該取得申込者が受益権の振替を行うための振替機関等の口座を申し出るものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。

取得申込みの受付は、原則として午後3時までとし、受付時間を過ぎた場合は翌営業日の取扱いとします。ファンドの取得申込者は、取得申込総金額を販売会社が定める日までにお申込みの販売会社に支払うものとし、申込締切時間および取得申込総金額の支払期日は販売会社により異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。

なお、販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとし、振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権にかかる信託を設定した旨の通知を行います。

(2) 各ファンドの価額は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額とします。基準価額は、委託会社の毎営業日計算され、販売会社または委託会社に問合せることにより知ることができます。



(3) 最低申込口数および申込単位は販売会社が定める単位とします。また、収益分配金の受取方法により、「一般コース」と「自動けいぞく投資コース」とがあります。各申込コースとも販売会社によって名称が異なる場合があります。詳細は販売会社（販売会社については前記（2）のお問合せ先にご照会ください。）へお問合せください。

また、販売会社により「定時定額購入コース」等を取り扱う場合があります。詳しくは販売会社へお問合せください。

(4) なお、取得申込時には、取得申込受付日の翌営業日の基準価額に、それぞれ取得口数を乗じて得た額に、販売会社が定める申込手数料率を乗じて得た額をご負担いただくものとなります。ただし、「自動けいぞく投資コース」で収益分配金を再投資する際は、無手数料となります。

詳しくは販売会社にお問合せください。

- (5) 委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、ファンドの取得申込みの受付を中止すること、および既に受付けた取得申込みの受付を取消す場合があります。

## 2【換金（解約）手続等】

- (1) 換金を行う受益者（販売会社を含みます。）は、自己に帰属する受益権につき、販売会社の営業日において、販売会社が定める解約単位をもって一部解約の実行の請求（以下、「解約請求」といいます。）を行うことで換金ができます。

ただし、申込受付不可日にあたる場合には、解約請求の申込みの受け付けは行いません。

解約請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の解約請求にかかるこの信託契約の一部解約の実行を委託会社が行うのと引換えに、当該解約請求にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。解約請求の申込みの受け付けは、原則として午後3時までとし、受付時間を過ぎた場合は翌営業日の取扱いとします。解約の申込締切時間は販売会社により異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。

- (2) 解約の価額は、解約請求の申込みを受け付けた日の翌営業日の基準価額とします。解約価額については、販売会社または委託会社（前記「1 申込（販売）手続等（2）」をご参照ください）に問合せることにより知ることができます。

解約代金は、受益者の解約請求を受け付けた日から起算して、原則として6営業日目から受益者に支払います。なお、換金（解約）手数料はありません。

- (3) 受益者が、換金にかかる解約請求の申込みをするときは、販売会社に対し、振替受益権をもって行うものとし、

- (4) 委託会社は、解約請求を受け付けた場合には、この投資信託契約の一部を解約します。

- (5) 委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行の請求の受付を中止すること、および既に受付けた解約請求の受付を取り消すことができるものとし、委託会社の判断により一定の金額を超える解約申込には制限を設ける場合があります。

- (6) 前記(5)により投資信託契約の一部解約の実行が中止された場合には、受益者は当該一部解約の実行の中止以前に行った当日の解約請求を撤回できます。受益者がその解約請求を撤回しない場合には、当該受益権の解約価額は、当該一部解約の実行の中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に解約請求を受け付けたものとして前記(2)の規定に準じて算出した価額とします。

買取請求による換金のお取扱いについては販売会社によって異なりますので、詳しくはお申込みの販売会社にお問合せください。

## 3【資産管理等の概要】

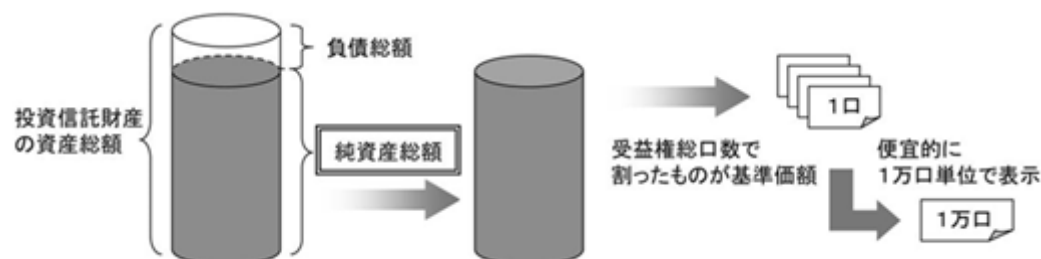
## (1)【資産の評価】

## 基準価額の算定

基準価額とは、投資信託財産に属する資産（借入有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価または一部償却原価法により評価して得た投資信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権総口数で除した受益権1口当たりの価額をいいます。ただし、便宜上1万口あたりに換算した価額で表示されます。

ファンドの主な投資対象の評価方法は以下の通りです。

対象	評価方法
外貨建資産	原則として、基準価額計算日の対顧客電信売買相場の仲値で円換算を行います。
予約為替	原則として、基準価額計算日の対顧客先物売買相場の仲値で評価します。
投資信託受益証券	原則として、投資信託受益証券の基準価額で評価します。
投資証券	原則として、投資証券の基準価額で評価します。



## 基準価額の算出頻度と公表

基準価額は、委託会社の毎営業日計算され、販売会社または委託会社に問合せることにより知ることができます。また、基準価額は原則として、計算日の翌日の日本経済新聞に掲載されます。なお、基準価額は1万口単位で表示されます。

ファンドの基準価額について委託会社の照会先は次の通りです。

**アムンディ・ジャパン株式会社**  
 お客様サポートライン 0120-202-900(フリーダイヤル)  
 受付は委託会社の営業日の午前9時から午後5時まで  
 ホームページアドレス： <http://www.amundi.co.jp>

## 追加信託金の計算方法

追加信託金は、追加信託を行う日の前営業日の基準価額に、当日の追加信託される受益権の口数を乗じて得た額とします。

収益分配金、償還金および一部解約金にかかる収益調整金<sup>1</sup>は、原則として、受益者ごとの信託時の受益権の価額等<sup>2</sup>に応じて計算されるものとします。

1「収益調整金」とは、所得税法施行令第27条の規定によるものとし、受益者ごとの信託時の受益権の価額と元本との差額をいい、原則として、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。

2「受益者ごとの信託時の受益権の価額等」とは、原則として、受益者ごとの信託時の受益権の価額をいい、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。

(2)【保管】

該当事項はありません。

(3)【信託期間】

投資信託契約締結日から平成31年2月25日までとします。

ただし信託期間中に「(5) その他 信託の終了(ファンドの繰上償還)」に該当する事項が生じた場合には、委託会社は受託会社と合意のうえ、一定の適切な措置を講じた後に、この投資信託契約を終了させることができます。詳細は「(5) その他 信託の終了(ファンドの繰上償還)」をご覧ください。

なお委託会社は、信託期間満了前に、信託期間の延長が受益者に有利であると認めるときは、受託会社と協議のうえ、信託期間を延長することができます。

(4)【計算期間】

<毎月決算型>

ファンドの計算期間は、原則として毎月26日から翌月25日までとします。ただし、第1期計算期間は、投資信託契約締結日から平成26年3月25日までとします。

前記にかかわらず、各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます。)が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は、投資信託約款に定める信託期間の終了日とします。

<年2回決算型>

ファンドの計算期間は、原則として毎年2月26日から8月25日まで、および8月26日から翌年2月25日までとします。ただし、第1期計算期間は、投資信託契約締結日から平成26年8月25日までとします。

前記にかかわらず、各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます。)が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は、投資信託約款に定める信託期間の終了日とします。

(5)【その他】

信託の終了(ファンドの繰上償還)

(イ) 委託会社は、次の場合、受託会社と合意のうえ、この投資信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

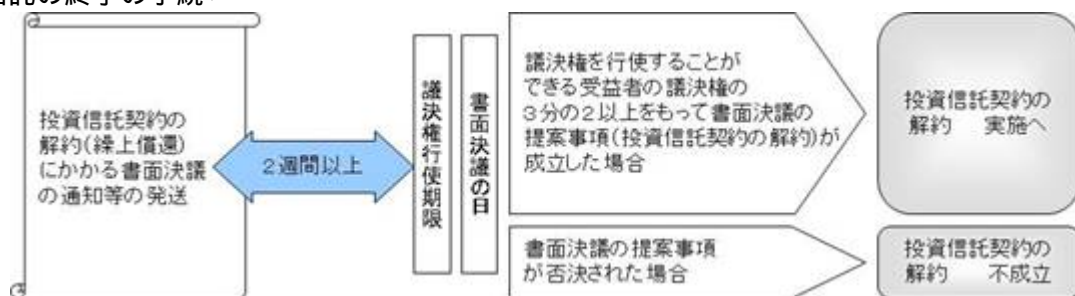
- A 各ファンドの純資産総額が10億円を下回ることとなった場合
- B 投資信託契約を解約することが受益者のために有利であると認めるとき
- C やむを得ない事情が発生したとき

(ロ) 委託会社は、前記(イ)にしたがい、信託を終了させる場合、以下の手続により行います。

- 1) 委託会社は、あらかじめ解約しようとする旨について、書面による決議(以下「書面決議」といいます)を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに投資信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この投資信託契約にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。

- 2) 前記1)の書面決議において、受益者（委託会社およびこの信託の投資信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託会社を除きます。以下2)において同じ）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- 3) 前記1)の書面決議は議決権を行行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- 4) 前記1)から前記3)までの規定は、以下に掲げる場合には適用しません。
  1. 投資信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、前記1)から3)までの規定による投資信託契約の解除の手続きを行うことが困難な場合
  2. 委託会社が投資信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、この投資信託契約に係るすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をした場合

#### < 信託の終了の手續 >



- (ハ) ファンドは、受益者からの解約請求に対して、投資信託契約の一部を解約することにより公正な価額をもって支払いに応じることができるため、受益者の保護に欠けるおそれがないものとして、書面決議において反対した受益者からの買取請求は受け付けません。
- (ニ) 委託会社は、監督官庁よりこの投資信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、投資信託契約を解約し信託を終了させます。
- (ホ) 委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、この投資信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁がこの投資信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この投資信託は、後記「投資信託約款の変更等」(ロ)の書面決議が否決された場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において、存続します。
- (ヘ) 受託会社が委託会社の承諾を受けてその任務を辞任した場合および解任された場合において、委託会社が新受託会社を選任できないとき、委託会社はこの投資信託契約を解約し、信託を終了させます。

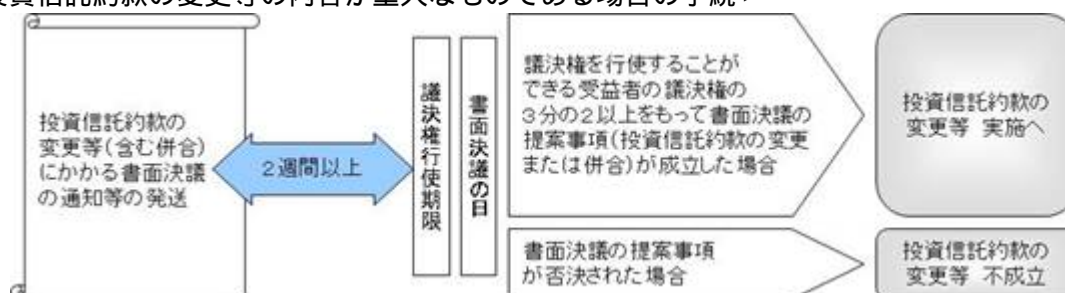
#### 投資信託約款の変更等

- (イ) 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この投資信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合（投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。）を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。なお、投資信託約款は「投資信託約款の変更等」に定める以外の方法によって変更することができないものとし、
- (ロ) 委託会社は、前記(イ)の事項（(イ)の変更事項にあっては、その内容が重大なものに該当する場合に限り、併合事項にあっては、その併合が受益者の利益に及ば

す影響が軽微な場合を除き、以下、合わせて「重大な約款の変更等」といいます)について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この投資信託約款にかかる知っている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発送します。

- (八) (ロ)の書面決議において、受益者(委託会社およびこの信託の投資信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下(八)において同じ)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、知っている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知っている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- (二) (ロ)の書面決議は議決権を行行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- (ホ) 書面決議の効力は、この信託のすべての受益者に対してその効力を生じます。
- (ヘ) (ロ)から(ホ)の規定は、委託会社が重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、この投資信託約款にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。
- (ト) 前記(イ)から前記(ヘ)にかかわらず、この投資信託において併合の書面決議が可決された場合であっても、当該併合にかかる一または複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行うことはできません。

<投資信託約款の変更等の内容が重大なものである場合の手続>



- (チ) ファンドは受益者からの解約請求に対して、投資信託契約の一部を解約することにより公正な価額をもって支払いに応じることができるため、受益者の保護に欠けるおそれがないものとして、書面決議において反対した受益者からの買取請求は受け付けません。

#### 運用報告書の作成

委託会社は、毎年2月、8月の計算期間末ごとおよび償還時に、期中の運用経過、組入有価証券の内容および有価証券の売買状況などを記載した交付運用報告書を作成し、知っている受益者に販売会社より交付します。

運用報告書(全体版)は、委託会社のホームページに掲載されます。ただし、受益者から運用報告書(全体版)の交付請求があった場合には、交付します。



#### 公告

委託会社が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。  
 関係法人との契約の更新に関する手続き

委託会社と販売会社との間で締結する「募集・販売等に関する契約」は、契約終了の3ヵ月前までに委託会社、販売会社のいずれからも別段の意思表示のないときは、自動的に1年間更新されるものとします。

受託会社の辞任および解任に伴う取扱い

受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社はその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を請求することができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は、前記「投資信託約款の変更等」の規定にしたがい、新受託会社を選任します。

その他

- (イ) 各ファンドについて、法令の定めるところにより、有価証券報告書を2月、8月の計算期間末から3ヵ月以内に提出します。
- (ロ) 受託会社は、各ファンドにかかる信託事務の処理の一部について日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。その場合には、再信託にかかる契約書類に基づいて所定の事務を行います。

#### 4【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は次の通りです。

収益分配金に対する請求権

- 1) 受益者は、委託会社が決定した収益分配金を持分に応じて請求する権利を有します。
- 2) 収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします)に毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日からお支払いします(決算日(休業日の場合は翌営業日)から起算して、原則として5営業日までに支払いを開始します)。収益分配金の支払は、販売会社の本支店営業所等において行うものとします。
- 3) 受益者は、収益分配金を支払開始日から5年間支払請求しないと権利を失います。

償還金に対する請求権

- 1) 受益者は、償還金を持分に応じて請求する権利を有します。
- 2) 償還金は、信託期間終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日(原則として償還日の翌営業日)から、信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(信託終了日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため指定販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として)に支払います。償還金の支払は、販売会社の本支店営業所等において行うものとします。
- 3) 受益者は、償還金を支払開始日から10年間その支払を請求しないと権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

途中換金(買取)請求権

- 1) 受益者は、販売会社が定める単位で途中換金の実行を請求すること、または買取を請求することにより換金する権利を有します。
- 2) 換金代金は、換金請求受付日から起算して、原則として6営業日目から受益者にお支払いします。

\* 買取の取扱いについては販売会社によって異なりますので、詳しくはお申込みの販売会社の本支店営業所等にお問合せください。

#### 帳簿書類の閲覧権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内にファンドの投資信託財産に関する帳簿書類の閲覧および謄写の請求をすることができます。



### 第3【ファンドの経理状況】

#### 【アムンディ・欧州リート・ファンド（高金利通貨戦略コース）＜毎月決算型＞】

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。  
 なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドの計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。
3. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第6特定期間(平成28年8月26日から平成29年2月27日まで)の財務諸表について、PWCあらた有限責任監査法人により監査を受けております。

#### 1【財務諸表】

##### アムンディ・欧州リート・ファンド（高金利通貨戦略コース）＜毎月決算型＞ （1）【貸借対照表】

（単位：円）

	第5特定期間末 （平成28年 8月25日）	第6特定期間末 （平成29年 2月27日）
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
コール・ローン	2,011,815	796,353
投資信託受益証券	9,993	9,991
投資証券	20,169,760	13,994,930
<b>流動資産合計</b>	<b>22,191,568</b>	<b>14,801,274</b>
<b>資産合計</b>		
	<b>22,191,568</b>	<b>14,801,274</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
未払金		218,240
未払収益分配金	401,229	280,227
未払解約金	22,413	
未払受託者報酬	562	380
未払委託者報酬	22,710	15,359
未払利息	4	2
その他未払費用	1,154	3,269
<b>流動負債合計</b>	<b>448,072</b>	<b>517,477</b>
<b>負債合計</b>		
	<b>448,072</b>	<b>517,477</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>元本等</b>		
元本	20,061,499	14,011,381
<b>剰余金</b>		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	1,681,997	272,416

(分配準備積立金)	320,626	188,998
元本等合計	21,743,496	14,283,797
純資産合計	21,743,496	14,283,797
負債純資産合計	22,191,568	14,801,274

## (2)【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	第5特定期間	第6特定期間
	自平成28年2月26日 至平成28年8月25日	自平成28年8月26日 至平成29年2月27日
<b>営業収益</b>		
受取配当金	439,148	809,268
有価証券売買等損益	490,487	368,370
営業収益合計	929,635	440,898
<b>営業費用</b>		
支払利息	378	301
受託者報酬	1,711	2,489
委託者報酬	68,725	100,803
その他費用	1,164	3,284
営業費用合計	71,978	106,877
営業利益又は営業損失( )	857,657	334,021
経常利益又は経常損失( )	857,657	334,021
当期純利益又は当期純損失( )	857,657	334,021
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額( )	3,858	494,891
期首剰余金又は期首欠損金( )	21,740	1,681,997
剰余金増加額又は欠損金減少額	2,155,776	387,709
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		71,666
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	2,155,776	316,043
剰余金減少額又は欠損金増加額	24,910	927,925
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	24,910	919,856
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		8,069
分配金	1,288,644	1,698,277
期末剰余金又は期末欠損金( )	1,681,997	272,416

## (3)【注記表】

## (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1) 投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。 (2) 投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として、収益分配金落ち日において、当該収益分配金金額を計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	特定期間の取扱い ファンドの特定期間は当期末が休日のため、平成28年 8月26日から平成29年 2月27日までとなっております。

## (貸借対照表に関する注記)

項目	第5特定期間末 (平成28年 8月25日)	第6特定期間末 (平成29年 2月27日)
1. 期首元本額	1,646,634円	20,061,499円
期中追加設定元本額	19,821,539円	10,655,020円
期中一部解約元本額	1,406,674円	16,705,138円
2. 特定期間末日における受益権の総数	20,061,499口	14,011,381口

## (損益及び剰余金計算書に関する注記)

第5特定期間 自 平成28年 2月26日 至 平成28年 8月25日	第6特定期間 自 平成28年 8月26日 至 平成29年 2月27日
分配金の計算過程 (平成28年2月26日から平成28年3月25日までの計算期間) 計算期間末における分配対象収益額652,742円(1万口当たり3,665円)のうち35,613円(1万口当たり200円)を分配金額としております。	分配金の計算過程 (平成28年8月26日から平成28年9月26日までの計算期間) 計算期間末における分配対象収益額6,319,315円(1万口当たり3,075円)のうち410,956円(1万口当たり200円)を分配金額としております。
A 費用控除後の配当等収益額 15,970円	A 費用控除後の配当等収益額 172,337円
B 費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額 0円	B 費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額 0円
C 収益調整金額 250,448円	C 収益調整金額 5,830,332円
D 分配準備積立金額 386,324円	D 分配準備積立金額 316,646円
E 当ファンドの分配対象収益額 (A+B+C+D) 652,742円	E 当ファンドの分配対象収益額 (A+B+C+D) 6,319,315円
F 当ファンドの期末残存受益権口数 1,780,688口	F 当ファンドの期末残存受益権口数 20,547,843口
G 1万口当たり分配対象収益額 (E / F × 10,000) 3,665円	G 1万口当たり分配対象収益額 (E / F × 10,000) 3,075円
H 1万口当たり分配金額 200円	H 1万口当たり分配金額 200円
I 分配金額 (F × H / 10,000) 35,613円	I 分配金額 (F × H / 10,000) 410,956円

(平成28年3月26日から平成28年4月25日までの計算期間)

計算期間末における分配対象収益額1,732,423円  
(1万口当たり3,549円)のうち97,618円(1万口当たり200円)を分配金額としております。

A	費用控除後の配当等収益額	14,574円
B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円
C	収益調整金額	1,331,545円
D	分配準備積立金額	386,304円
E	当ファンドの分配対象収益額(A+B+C+D)	1,732,423円
F	当ファンドの期末残存受益権口数	4,880,916口
G	1万口当たり分配対象収益額(E/F×10,000)	3,549円
H	1万口当たり分配金額	200円
I	分配金額(F×H/10,000)	97,618円

(平成28年4月26日から平成28年5月25日までの計算期間)

計算期間末における分配対象収益額1,822,427円  
(1万口当たり3,439円)のうち105,965円(1万口当たり200円)を分配金額としております。

A	費用控除後の配当等収益額	44,130円
B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円
C	収益調整金額	1,393,786円
D	分配準備積立金額	384,511円
E	当ファンドの分配対象収益額(A+B+C+D)	1,822,427円
F	当ファンドの期末残存受益権口数	5,298,257口
G	1万口当たり分配対象収益額(E/F×10,000)	3,439円
H	1万口当たり分配金額	200円
I	分配金額(F×H/10,000)	105,965円

(平成28年5月26日から平成28年6月27日までの計算期間)

計算期間末における分配対象収益額5,343,960円  
(1万口当たり3,261円)のうち327,673円(1万口当たり200円)を分配金額としております。

A	費用控除後の配当等収益額	32,601円
B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円
C	収益調整金額	4,924,704円
D	分配準備積立金額	386,655円
E	当ファンドの分配対象収益額(A+B+C+D)	5,343,960円
F	当ファンドの期末残存受益権口数	16,383,666口
G	1万口当たり分配対象収益額(E/F×10,000)	3,261円
H	1万口当たり分配金額	200円
I	分配金額(F×H/10,000)	327,673円

(平成28年6月28日から平成28年7月25日までの計算期間)

計算期間末における分配対象収益額5,300,201円  
(1万口当たり3,306円)のうち320,546円(1万口当たり200円)を分配金額としております。

A	費用控除後の配当等収益額	146,200円
B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	239,812円

(平成28年9月27日から平成28年10月25日までの計算期間)

計算期間末における分配対象収益額3,338,360円  
(1万口当たり2,957円)のうち225,790円(1万口当たり200円)を分配金額としております。

A	費用控除後の配当等収益額	82,951円
B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円
C	収益調整金額	3,100,156円
D	分配準備積立金額	155,253円
E	当ファンドの分配対象収益額(A+B+C+D)	3,338,360円
F	当ファンドの期末残存受益権口数	11,289,502口
G	1万口当たり分配対象収益額(E/F×10,000)	2,957円
H	1万口当たり分配金額	200円
I	分配金額(F×H/10,000)	225,790円

(平成28年10月26日から平成28年11月25日までの計算期間)

計算期間末における分配対象収益額3,426,821円  
(1万口当たり2,838円)のうち241,466円(1万口当たり200円)を分配金額としております。

A	費用控除後の配当等収益額	92,063円
B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円
C	収益調整金額	3,181,703円
D	分配準備積立金額	153,055円
E	当ファンドの分配対象収益額(A+B+C+D)	3,426,821円
F	当ファンドの期末残存受益権口数	12,073,320口
G	1万口当たり分配対象収益額(E/F×10,000)	2,838円
H	1万口当たり分配金額	200円
I	分配金額(F×H/10,000)	241,466円

(平成28年11月26日から平成28年12月26日までの計算期間)

計算期間末における分配対象収益額3,949,814円  
(1万口当たり2,936円)のうち268,968円(1万口当たり200円)を分配金額としております。

A	費用控除後の配当等収益額	105,992円
B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	280,709円
C	収益調整金額	3,418,128円
D	分配準備積立金額	144,985円
E	当ファンドの分配対象収益額(A+B+C+D)	3,949,814円
F	当ファンドの期末残存受益権口数	13,448,449口
G	1万口当たり分配対象収益額(E/F×10,000)	2,936円
H	1万口当たり分配金額	200円
I	分配金額(F×H/10,000)	268,968円

(平成28年12月27日から平成29年1月25日までの計算期間)

計算期間末における分配対象収益額3,813,587円  
(1万口当たり2,815円)のうち270,870円(1万口当たり200円)を分配金額としております。

A	費用控除後の配当等収益額	95,059円
B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円

C	収益調整金額	4,555,059円	C	収益調整金額	3,484,220円
D	分配準備積立金額	359,130円	D	分配準備積立金額	234,308円
E	当ファンドの分配対象収益額 (A+B+C+D)	5,300,201円	E	当ファンドの分配対象収益額 (A+B+C+D)	3,813,587円
F	当ファンドの期末残存受益権 口数	16,027,321口	F	当ファンドの期末残存受益権 口数	13,543,547口
G	1万口当たり分配対象収益額 (E / F × 10,000)	3,306円	G	1万口当たり分配対象収益額 (E / F × 10,000)	2,815円
H	1万口当たり分配金額	200円	H	1万口当たり分配金額	200円
I	分配金額(F × H / 10,000)	320,546円	I	分配金額(F × H / 10,000)	270,870円
<p>(平成28年7月26日から平成28年8月25日までの計 算期間) 計算期間末における分配対象収益額6,397,129円 (1万口当たり3,188円)のうち401,229円(1万 口当たり200円)を分配金額としております。</p>			<p>(平成29年1月26日から平成29年2月27日までの計 算期間) 計算期間末における分配対象収益額3,797,276円 (1万口当たり2,710円)のうち280,227円(1万 口当たり200円)を分配金額としております。</p>		
A	費用控除後の配当等収益額	127,841円	A	費用控除後の配当等収益額	96,278円
B	費用控除後・繰越欠損金補填 後の有価証券売買等損益額	0円	B	費用控除後・繰越欠損金補填 後の有価証券売買等損益額	12,885円
C	収益調整金額	5,675,274円	C	収益調整金額	3,511,446円
D	分配準備積立金額	594,014円	D	分配準備積立金額	176,667円
E	当ファンドの分配対象収益額 (A+B+C+D)	6,397,129円	E	当ファンドの分配対象収益額 (A+B+C+D)	3,797,276円
F	当ファンドの期末残存受益権 口数	20,061,499口	F	当ファンドの期末残存受益権 口数	14,011,381口
G	1万口当たり分配対象収益額 (E / F × 10,000)	3,188円	G	1万口当たり分配対象収益額 (E / F × 10,000)	2,710円
H	1万口当たり分配金額	200円	H	1万口当たり分配金額	200円
I	分配金額(F × H / 10,000)	401,229円	I	分配金額(F × H / 10,000)	280,227円

## (金融商品に関する注記)

## .金融商品の状況に関する事項

項目	第5特定期間	第6特定期間
	自平成28年 2月26日 至平成28年 8月25日	自平成28年 8月26日 至平成29年 2月27日
1. 金融商品に対する取組 方針	信託約款に規定する「運用の基 本方針」の定めに従い、有価証 券等の金融商品を投資対象とし て運用を行っております。	同左
2. 金融商品の内容及び当 該金融商品に係るリス ク	保有する主な金融商品は、有価 証券であり、その内容を貸借対 照表、注記表及び附属明細表に 記載しております。これらは売 買目的で保有しております。 当該金融商品には、価格変動リ スク、為替変動リスク、信用リ スク及び流動性リスク等があり ます。	同左

3. 金融商品に係るリスク管理体制	リスクマネジメント部が、当ファンドの主要投資対象である投資信託受益証券及び投資証券のパフォーマンス状況及びマーケット動向等のモニタリングを行っております。また、価格変動リスク、為替変動リスク、信用リスク及び流動性リスク等の運用リスクを分析し、定期的にリスク委員会に報告しております。	同左
-------------------	---	----

・金融商品の時価等に関する事項

項目	第5特定期間末 (平成28年 8月25日)	第6特定期間末 (平成29年 2月27日)
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	貸借対照表計上額は、期末の時価で計上しているためその差額はありません。	同左
2. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項	<p>(1) 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p> <p>(2) 有価証券 時価の算定方法は「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」に記載しております。また、有価証券に関する注記事項については、「(有価証券に関する注記)」に記載しております。</p> <p>(3) デリバティブ取引 該当事項はありません。</p>	<p>(1) 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左</p> <p>(2) 有価証券 同左</p> <p>(3) デリバティブ取引 同左</p>
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	第5特定期間末 (平成28年 8月25日)	第6特定期間末 (平成29年 2月27日)
	最終計算期間の損益に 含まれた評価差額(円)	最終計算期間の損益に 含まれた評価差額(円)
投資信託受益証券	4	1
投資証券	141,359	579,744
合計	141,363	579,745

（デリバティブ取引等に関する注記）

第5特定期間末（平成28年8月25日）

該当事項はありません。

第6特定期間末（平成29年2月27日）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

第5特定期間（自平成28年2月26日 至平成28年8月25日）

該当事項はありません。

第6特定期間（自平成28年8月26日 至平成29年2月27日）

該当事項はありません。

（1口当たり情報に関する注記）

	第5特定期間末 （平成28年 8月25日）	第6特定期間末 （平成29年 2月27日）
1口当たり純資産額 （1万口当たり純資産額）	1.0838円 （10,838円）	1.0194円 （10,194円）

（4）【附属明細表】

第1 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	口数	評価額	備考
投資信託 受益証券	日本円	CAマネープールファンド(適格機関 投資家専用)	9,925	9,991	
		小計	9,925	9,991	
		銘柄数 組入時価比率	1 0.1%	100.0%	
	投資信託受益証券 合計				9,991
投資証券	日本円	アムンディ・インターインベストリート・ 欧州（選定通貨、I2シェアクラス）	1,300.765	13,994,930	
		小計	1,300.765	13,994,930	
		銘柄数 組入時価比率	1 98.0%	100.0%	
	投資証券 合計				13,994,930
合計				14,004,921	

（注）組入時価比率は、左より組入時価の純資産に対する比率及び各小計欄の各合計金額に対する比率であります。

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。



## 【アムンディ・欧州リート・ファンド（高金利通貨戦略コース）＜年2回決算型＞】

- 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。  
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- 当ファンドの計算期間は6ヵ月であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。
- 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第6期計算期間（平成28年8月26日から平成29年2月27日まで）の財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人により監査を受けております。

## 1【財務諸表】

アムンディ・欧州リート・ファンド（高金利通貨戦略コース）＜年2回決算型＞

## (1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第5期計算期間末 (平成28年 8月25日)	第6期計算期間末 (平成29年 2月27日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
コール・ローン	66,509	49,361
投資信託受益証券	9,993	9,991
投資証券	1,563,058	1,697,393
流動資産合計	1,639,560	1,756,745
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払収益分配金	1,260	1,268
未払解約金	1,300	
未払受託者報酬	206	247
未払委託者報酬	9,428	10,930
その他未払費用	610	648
流動負債合計	12,804	13,093
負債合計	12,804	13,093
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	1,260,717	1,268,400
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金( )	366,039	475,252
(分配準備積立金)	523,010	596,581
元本等合計	1,626,756	1,743,652
純資産合計	1,626,756	1,743,652
負債純資産合計	1,639,560	1,756,745

## (2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第5期計算期間	第6期計算期間
	自 平成28年 2月26日 至 平成28年 8月25日	自 平成28年 8月26日 至 平成29年 2月27日
<b>営業収益</b>		
受取配当金	75,678	87,268
有価証券売買等損益	164,681	33,065
営業収益合計	240,359	120,333
<b>営業費用</b>		
受託者報酬	206	247
委託者報酬	9,428	10,930
その他費用	610	648
営業費用合計	10,244	11,825
営業利益又は営業損失( )	230,115	108,508
経常利益又は経常損失( )	230,115	108,508
当期純利益又は当期純損失( )	230,115	108,508
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額( )	889	97
期首剰余金又は期首欠損金( )	98,462	366,039
剰余金増加額又は欠損金減少額	40,253	4,599
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	40,253	4,599
剰余金減少額又は欠損金増加額	642	2,529
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	642	2,529
分配金	1,260	1,268
期末剰余金又は期末欠損金( )	366,039	475,252

## (3)【注記表】

## (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1) 投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。 (2) 投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として、収益分配金落ち日において、当該収益分配金金額を計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	計算期間の取扱い ファンドの計算期間は当期末が休日のため、平成28年8月26日から平成29年2月27日までとなっております。

## (貸借対照表に関する注記)

項目	第5期計算期間末 (平成28年 8月25日)	第6期計算期間末 (平成29年 2月27日)
1. 期首元本額	1,079,287円	1,260,717円
期中追加設定元本額	187,584円	16,393円
期中一部解約元本額	6,154円	8,710円
2. 計算期間末日における受益権の総数	1,260,717口	1,268,400口

## (損益及び剰余金計算書に関する注記)

第5期計算期間 自 平成28年 2月26日 至 平成28年 8月25日		第6期計算期間 自 平成28年 8月26日 至 平成29年 2月27日	
分配金の計算過程 計算期間末における分配対象収益額650,351円(1万口当たり5,158円)のうち1,260円(1万口当たり10円)を分配金額としております。		分配金の計算過程 計算期間末における分配対象収益額732,003円(1万口当たり5,771円)のうち1,268円(1万口当たり10円)を分配金額としております。	
A	費用控除後の配当等収益額 72,229円	A	費用控除後の配当等収益額 78,430円
B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額 0円	B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額 0円
C	収益調整金額 126,081円	C	収益調整金額 134,154円
D	分配準備積立金額 452,041円	D	分配準備積立金額 519,419円
E	当ファンドの分配対象収益額 (A+B+C+D) 650,351円	E	当ファンドの分配対象収益額 (A+B+C+D) 732,003円
F	当ファンドの期末残存受益権口数 1,260,717口	F	当ファンドの期末残存受益権口数 1,268,400口
G	1万口当たり分配対象収益額 (E / F × 10,000) 5,158円	G	1万口当たり分配対象収益額 (E / F × 10,000) 5,771円
H	1万口当たり分配金額 10円	H	1万口当たり分配金額 10円
I	分配金額 (F × H / 10,000) 1,260円	I	分配金額 (F × H / 10,000) 1,268円

## (金融商品に関する注記)

.金融商品の状況に関する事項

項目	第5期計算期間 自 平成28年 2月26日 至 平成28年 8月25日	第6期計算期間 自 平成28年 8月26日 至 平成29年 2月27日
1. 金融商品に対する取組方針	信託約款に規定する「運用の基本方針」の定めに従い、有価証券等の金融商品を投資対象として運用を行っております。	同左
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	保有する主な金融商品は、有価証券であり、その内容を貸借対照表、注記表及び附属明細表に記載しております。これらは売買目的で保有しております。当該金融商品には、価格変動リスク、為替変動リスク、信用リスク及び流動性リスク等があります。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	リスクマネジメント部が、当ファンドの主要投資対象である投資信託受益証券及び投資証券のパフォーマンス状況及びマーケット動向等のモニタリングを行っております。また、価格変動リスク、為替変動リスク、信用リスク及び流動性リスク等の運用リスクを分析し、定期的にリスク委員会に報告しております。	同左

・金融商品の時価等に関する事項

項目	第5期計算期間末 (平成28年 8月25日)	第6期計算期間末 (平成29年 2月27日)
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	貸借対照表計上額は、期末の時価で計上しているためその差額はありません。	同左
2. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項	<p>(1) 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p> <p>(2) 有価証券 時価の算定方法は「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」に記載しております。また、有価証券に関する注記事項については、「(有価証券に関する注記)」に記載しております。</p> <p>(3) デリバティブ取引 該当事項はありません。</p>	<p>(1) 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左</p> <p>(2) 有価証券 同左</p> <p>(3) デリバティブ取引 同左</p>

3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左
----------------------------	---	----

## (有価証券に関する注記)

## 売買目的有価証券

種類	第5期計算期間末 (平成28年 8月25日)	第6期計算期間末 (平成29年 2月27日)
	当計算期間の損益に 含まれた評価差額(円)	当計算期間の損益に 含まれた評価差額(円)
投資信託受益証券	8	2
投資証券	164,689	32,791
合計	164,681	32,789

## (デリバティブ取引等に関する注記)

第5期計算期間末(平成28年 8月25日)

該当事項はありません。

第6期計算期間末(平成29年 2月27日)

該当事項はありません。

## (関連当事者との取引に関する注記)

第5期計算期間(自平成28年2月26日 至平成28年8月25日)

該当事項はありません。

第6期計算期間(自平成28年8月26日 至平成29年2月27日)

該当事項はありません。

## (1口当たり情報に関する注記)

	第5期計算期間末 (平成28年 8月25日)	第6期計算期間末 (平成29年 2月27日)
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.2903円 (12,903円)	1.3747円 (13,747円)

## (4)【附属明細表】

## 第1 有価証券明細表

## 株式

該当事項はありません。

## 株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	口数	評価額	備考
投資信託 受益証券	日本円	CAマネープールファンド(適格機関 投資家専用)	9,925	9,991	
			9,925	9,991	
	小計	銘柄数 組入時価比率	1 0.6%	100.0%	
	投資信託受益証券 合計				9,991
投資証券	日本円	アムンディ・インターインベスト・リート・ 欧州(選定通貨、I2シェアクラス)	157.765	1,697,393	
			157.765	1,697,393	
	小計	銘柄数 組入時価比率	1 97.3%	100.0%	
	投資証券 合計				1,697,393
合計				1,707,384	

(注) 組入時価比率は、左より組入時価の純資産に対する比率及び各小計欄の各合計金額に対する比率であります。

## 第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## 2【ファンドの現況】

## 【純資産額計算書】

「アムンディ・欧州リート・ファンド(高金利通貨戦略コース) &lt;毎月決算型&gt;」

平成29年2月末日現在

資産総額	14,427,561円
負債総額	575円
純資産総額( - )	14,426,986円
発行済口数	14,263,423口
1口当たり純資産額( / )	1.0115円
(1万口当たり純資産額)	(10,115円)

「アムンディ・欧州リート・ファンド(高金利通貨戦略コース) &lt;年2回決算型&gt;」

平成29年2月末日現在

資産総額	1,731,931円
負債総額	68円
純資産総額( - )	1,731,863円
発行済口数	1,269,859口
1口当たり純資産額( / )	1.3638円
(1万口当たり純資産額)	(13,638円)

## 第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

### 1 受益者に対する特典

該当事項はありません。

### 2 受益証券名義書き換えの事務等

各ファンドの受益権は、振替制度における振替受益権であるため、委託会社はこの信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、各ファンドの振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

### 3 受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。

前記の申請のある場合には、前記の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、前記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

前記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

### 4 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

### 5 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社振法の定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

### 6 償還金

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として扱います。）に支払います。

### 7 質権口記載または記録の受益権の取り扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受け付け、一部解約金および償還金の支払い等については、投資信託約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。



## 第二部【委託会社等の情報】

### 第1【委託会社等の概況】

#### 1【委託会社等の概況】

##### (1)資本金の額

本書提出日現在	資本金の額	12億円
	発行株式総数	9,000,000株
	発行済株式総数	2,400,000株

直近5年間における資本金の額の増減はありません。

##### (2)委託会社の概況

委託会社の意思決定機構

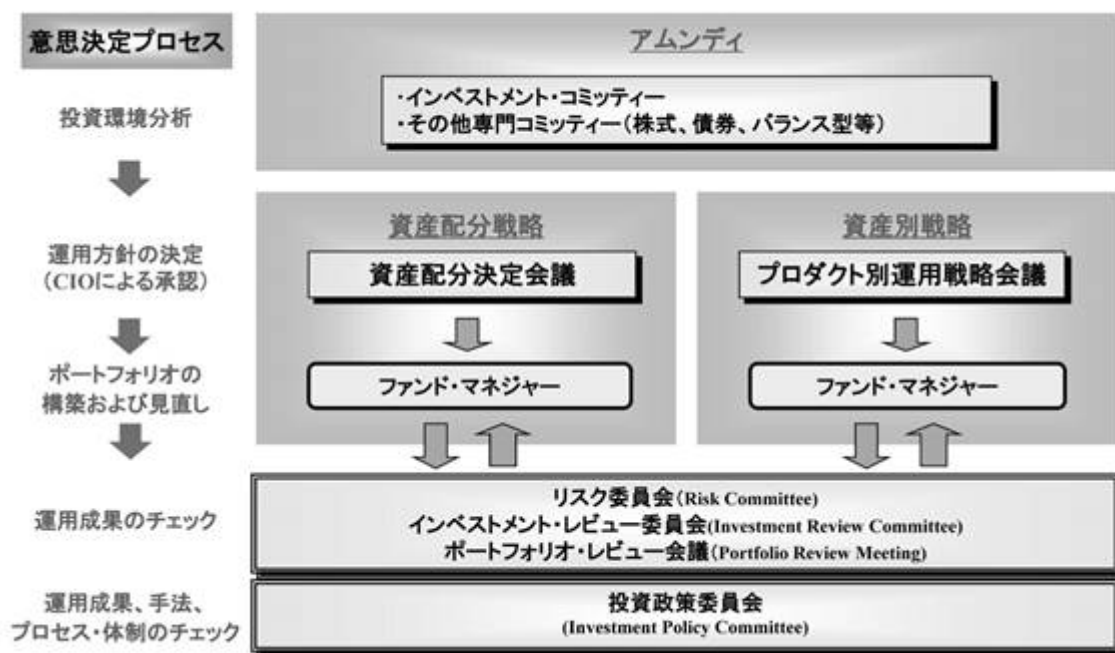
当社業務執行の最高機関としてある取締役会は3名以上の取締役で構成されます。

取締役会はその決議をもって、取締役中より代表取締役を選任します。

取締役会は、法令または定款に定める事項の他、業務執行に関する重要事項を決定します。

その決議は、取締役会の過半数が出席し、その出席取締役の過半数をもって行います。

投資運用の意思決定機構



- ・アムンディで開催される投資に関する様々なコミッティーで、株式・債券見直し、および運用戦略を決定します。
- ・決定した戦略を取り込み、弊社が開催する資産配分決定会議、プロダクト別運用戦略会議において、資産配分、プロダクト別の投資戦略を協議し、決定します。
- ・決定事項にしたがい、ファンドマネジャーは資産配分やポートフォリオの構築・見直しを行います。
- ・月次で開催されるリスク委員会で、パフォーマンス分析および運用ガイドラインのモニタリング結果等について報告を行います。
- ・インベストメント・レビュー委員会（月次開催）では、プロダクトごとのより詳細な運用状況を報告し、改善施策の検討や運用方針の確認を行います。
- ・さらにリスクマネジメント部と運用部の間においては、ポートフォリオレビュー会議を開催し、運用ガイドライン項目の確認、日々のモニタリング結果、ポートフォリオ分析およびパフォーマンス結果等をフィードバックします。

- ・必要に応じて開催する投資政策委員会では、運用プロダクトの質について検証します。
- ・資産配分戦略、ならびにプロダクト別運用戦略にかかる諸会議を定期的で開催します。また投資環境急変時には臨時会合を召集します。

上記の意思決定機構等は本書作成日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

## 2【事業の内容及び営業の概況】

### 事業の内容

委託会社であるアムンディ・ジャパン株式会社は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社であり、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその投資運用業務および投資助言・代理業務を行っています。また「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業務および第二種金融商品取引業務を行っています。

### 営業の概況

平成29年2月末日現在、委託会社の運用する投資信託の本数、純資産額の合計額は以下の通りです。

種 類	本 数	純 資 産 (百 万 円)
単位型株式投資信託	5	11,316
追加型株式投資信託	188	2,203,959
合計	193	2,215,275

### 3【委託会社等の経理状況】

(1) 委託会社であるアムンディ・ジャパン株式会社(以下「当社」という)の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)に基づいて作成しております。また、当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)並びに同規則第38条及び第57条により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)に基づいて作成しております。

(2) 財務諸表及び中間財務諸表の金額については、千円未満の端数を四捨五入して記載しております。

(3) 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第35期事業年度(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)の財務諸表について、PwCあらた監査法人により監査を受けております。

また、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第36期事業年度に係る中間会計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)の中間財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人により中間監査を受けております。

なお、従来から当社が監査証明を受けているPwCあらた監査法人は、監査法人の種類の変更により、平成28年7月1日をもってPwCあらた有限責任監査法人となりました。

## ( 1 ) 【貸借対照表】

( 単位：千円 )

	第34期 (平成27年3月31日)	第35期 (平成28年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金・預金	4,006,104	9,636,443
有価証券	1,280,268	802,951
前払費用	111,748	119,819
未収入金	4,711	3,757
未収委託者報酬	2,133,487	2,292,951
未収運用受託報酬	*1 1,220,234	*1 1,113,454
未収投資助言報酬	4,835	3,301
未収収益	*1 94,651	*1 122,432
繰延税金資産	180,753	202,477
委託証拠金	5,887	-
立替金	111,033	108,253
その他	69	66
流動資産合計	9,153,779	14,405,903
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	*2 97,438	*2 83,036
器具備品(純額)	*2 113,901	*2 100,390
有形固定資産合計	211,339	183,426
無形固定資産		
ソフトウェア	7,178	45,619
電話加入権	934	934
無形固定資産合計	8,112	46,554
投資その他の資産		
金銭の信託	1,314,154	907,640
投資有価証券	3,240,128	50,697
関係会社株式	84,560	84,560
長期未収入金	3,000	2,000
長期差入保証金	199,857	208,537
ゴルフ会員権	60	60
貸倒引当金	3,000	2,000
投資その他の資産合計	4,838,760	1,251,494
固定資産合計	5,058,211	1,481,474
資産合計	14,211,989	15,887,377

（単位：千円）

	第34期 (平成27年3月31日)	第35期 (平成28年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
リース債務	2,319	2,319
預り金	354,200	401,810
未払金	1,463,505	1,461,009
未払手数料	1,258,595	1,263,382
その他未払金	*1 204,910	*1 197,628
未払費用	320,874	382,213
未払法人税等	338,100	246,803
関係会社未払金	*1 616,896	*1 562,135
未払消費税等	263,010	51,838
前受収益	34,455	2,883
賞与引当金	143,567	178,418
役員賞与引当金	29,892	55,325
先物取引	2,257	-
流動負債合計	3,569,075	3,344,754
<b>固定負債</b>		
リース債務	2,136	6,568
繰延税金負債	24,074	5,721
退職給付引当金	35,980	27,454
賞与引当金	33,133	51,344
役員賞与引当金	19,867	39,959
資産除去債務	52,964	54,018
固定負債合計	168,153	185,065
負債合計	3,737,228	3,529,818
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	1,200,000	1,200,000
資本剰余金		
資本準備金	1,076,268	1,076,268
その他資本剰余金	1,342,567	1,342,567
資本剰余金合計	2,418,835	2,418,835
<b>利益剰余金</b>		
利益準備金	110,093	110,093
その他利益剰余金	6,716,911	8,631,177
別途積立金	1,600,000	1,600,000
繰越利益剰余金	5,116,911	7,031,177
利益剰余金合計	6,827,003	8,741,269
株主資本合計	10,445,839	12,360,104

評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	28,922	2,546
評価・換算差額等合計	28,922	2,546
純資産合計	10,474,761	12,357,559
負債純資産合計	14,211,989	15,887,377

## （ 2 ） 【 損益計算書 】

（ 単位：千円 ）

	第34期 （自平成26年4月 1日 至平成27年3月31日）	第35期 （自平成27年4月 1日 至平成28年3月31日）
営業収益		
委託者報酬	15,779,303	14,680,790
運用受託報酬	3,708,288	3,412,588
投資助言報酬	17,639	13,302
その他営業収益	386,569	562,617
営業収益合計	19,891,798	18,669,296
営業費用		
支払手数料	9,990,360	9,161,802
広告宣伝費	115,498	131,066
調査費	1,402,345	1,330,209
調査費	691,906	711,660
委託調査費	710,439	618,549
委託計算費	20,635	21,470
営業雑経費	168,609	207,548
通信費	42,520	48,788
印刷費	107,212	134,491
協会費	18,876	24,270
営業費用合計	11,697,447	10,852,095
一般管理費		
給料	2,779,891	2,923,866
役員報酬	124,594	205,916
給料・手当	2,183,550	2,220,350
賞与	462,670	470,236
役員賞与	9,077	27,364
交際費	14,961	35,249
旅費交通費	81,846	84,282
租税公課	57,342	77,090
不動産賃借料	167,818	176,671
賞与引当金繰入	163,625	196,629
役員賞与引当金繰入	33,625	75,417
退職給付費用	259,853	280,581
固定資産減価償却費	35,714	42,306
福利厚生費	363,438	385,845
諸経費	202,191	288,859
一般管理費合計	4,160,303	4,566,795
営業利益	4,034,048	3,250,406
営業外収益		

有価証券利息	11,954	9,839
有価証券売却益	1,605	46,524
受取利息	9	259
為替差益	1,538	-
雑収入	11,773	9,310
営業外収益合計	26,879	65,932
営業外費用		
先物取引評価損	16,014	487
支払利息	94	396
為替差損	-	14,639
雑損失	40	578
営業外費用合計	16,148	16,099
経常利益	4,044,779	3,300,239
特別損失		
固定資産除却損	*1 7,511	1,166
減損損失	-	*1 12,093
特別損失合計	7,511	13,259
税引前当期純利益	4,037,268	3,286,980
法人税、住民税及び事業税	951,382	1,145,638
法人税等調整額	77,219	22,924
法人税等合計	874,163	1,122,714
当期純利益	3,163,105	2,164,266



## ( 3 ) 【株主資本等変動計算書】

第34期（自平成26年4月 1日 至平成27年3月31日）

(単位:千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	1,200,000	1,076,268	1,342,567	2,418,835
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純利益				
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)				
当期変動額合計				
当期末残高	1,200,000	1,076,268	1,342,567	2,418,835

	株主資本				
	利益剰余金				株主資本 合計
	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計	
		別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	110,093	1,600,000	2,303,806	4,013,898	7,632,734
当期変動額					
剰余金の配当			350,000	350,000	350,000
当期純利益			3,163,105	3,163,105	3,163,105
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)					
当期変動額合計			2,813,105	2,813,105	2,813,105
当期末残高	110,093	1,600,000	5,116,911	6,827,003	10,445,839

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	7,190	17,220	10,030	7,642,764
当期変動額				
剰余金の配当				350,000
当期純利益				3,163,105
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	36,112	17,220	18,892	18,892
当期変動額合計	36,112	17,220	18,892	2,831,997
当期末残高	28,922	-	28,922	10,474,761

第35期（自平成27年4月 1日 至平成28年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	1,200,000	1,076,268	1,342,567	2,418,835
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純利益				
株主資本以外の項目の当期変動額 （純額）				
当期変動額合計				
当期末残高	1,200,000	1,076,268	1,342,567	2,418,835

	株主資本				
	利益剰余金				株主資本 合計
	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計	
		別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	110,093	1,600,000	5,116,911	6,827,003	10,445,839
当期変動額					
剰余金の配当			250,000	250,000	250,000
当期純利益			2,164,266	2,164,266	2,164,266
株主資本以外の項目の当期変動額 （純額）					
当期変動額合計			1,914,266	1,914,266	1,914,266
当期末残高	110,093	1,600,000	7,031,177	8,741,269	12,360,104

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	28,922	28,922	10,474,761
当期変動額			
剰余金の配当			250,000
当期純利益			2,164,266
株主資本以外の項目の当期変動額 （純額）	31,468	31,468	31,468
当期変動額合計	31,468	31,468	1,882,798
当期末残高	2,546	2,546	12,357,559

## 注記事項

### (重要な会計方針)

#### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

##### (1)満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)を採用しております。

##### (2)子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

##### (3)その他有価証券

###### 時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

###### 時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

#### 2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法

##### (1)デリバティブ

時価法を採用しております。

##### (2)金銭の信託

時価法を採用しております。(評価差額は全部純資産直入法により処理しております。)

#### 3. 固定資産の減価償却の方法

##### (1)有形固定資産(リース資産を除く)

定額法により償却しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 15年～18年

器具備品 4年～15年

##### (2)無形固定資産

定額法により償却しております。

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

##### (3)リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法により償却しております。

#### 4. 引当金の計上基準

##### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

##### (2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務(直近の年金財政計算上の責任準備金をもって退職給付債務とする簡便法)及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

##### (3) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度に帰属する額を計上しております。なお、ある条件を満たした者に対して、一定金額を繰延支給する制度が導入されております。当該賞与は数年間に分割支給されるため、1年を超えて支払われる部分については固定負債に計上しております。

##### (4) 役員賞与引当金

役員に対する賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度に帰属する額を計上しております。なお、ある条件を満たした者に対して、一定金額を繰延支給する制度が導入されております。当該賞与は数年間に分割支給されるため、1年を超えて支払われる部分については固定負債に計上しております。

#### 5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

##### (1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

##### (2) 連結納税制度の適用

アムンディ・ジャパンホールディング株式会社を連結納税親会社とする連結納税制度を適用しております。

#### (未適用の会計基準等に関する注記)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)

##### (1) 概要

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」は、日本公認会計士協会における税効果会計に関する会計上の実務指針及び監査上の実務指針(会計処理に関する部分)を企業会計基準委員会に移管するに際して、企業会計基準委員会が、当該実務指針のうち主に日本公認会計士協会監査委員会報告第66号「繰延税金資産の回収可能性の判断に関する監査上の取扱い」において定められている繰延税金資産の回収可能性に関する指針について、企業を5つに分類し、当該分類に応じて繰延税金資産の計上額を見積もるという取扱いの枠組みを基本的に踏襲した上で、分類の要件及び繰延税金資産の計上額の取扱いの一部について必要な見直しを行ったもので、繰延税金資産の回収可能性について、「税効果会計に関する会計基準」(企業会計審議会)を適用する際の指針を定めたものであります。

##### (2) 適用予定日

平成28年4月1日以降開始する事業年度の期首から適用します。

##### (3) 当該会計基準等の適用による影響

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」の適用による財務諸表に与える影響はありません。

（貸借対照表関係）

\*1各勘定科目に含まれる関係会社に対するものは以下のとおりであります。

	第34期 (平成27年3月31日)	第35期 (平成28年3月31日)
未収運用受託報酬	29,378 千円	27,461 千円
未収収益	74,065 千円	108,242 千円
その他未払金	106,207 千円	69,245 千円
関係会社未払金	616,896 千円	562,135 千円

\*2有形固定資産の減価償却累計額は以下のとおりであります。

	第34期 (平成27年3月31日)	第35期 (平成28年3月31日)
建物	68,245 千円	70,879 千円
器具備品費	169,289 千円	189,524 千円

（損益計算書関係）

第34期（自平成26年4月 1日 至平成27年3月31日）

\*1特別損失に含まれる固定資産除却損

固定資産の除却損は、本社オフィスで使用していた固定資産の除却であります。

第35期（自平成27年4月 1日 至平成28年3月31日）

\*1特別損失に含まれる減損損失

当事業年度において、当社は以下の資産について減損損失を計上いたしました。

場所	用途	種類
日比谷ダイビル 18F, 21F会議室	処分予定資産	建 物
		器具備品

当社は、資産運用会社であり、基本的に全資産が一体となってキャッシュフローを生み出す単位として取り扱っております。

当社は、東京都千代田区に所在する日比谷ダイビルに本社事務所を賃借しておりますが、事務所の18階借室を平成28年6月20日に返還することとなりました。その為、当初の予定より早期に資産を除却することが予定され、当該将来の使用が見込まれないものについては処分予定資産としてグルーピングを行っております。日比谷ダイビル事務所18階借室および21階会議室部分の建物と器具備品については、処分予定時における残存帳簿価格から直接減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。

（減損損失の金額）	
建 物	8,068千円
器具備品	4,026千円
合 計	12,093千円

（株主資本等変動計算書関係）

第34期（自平成26年4月 1日 至平成27年3月31日）

1．発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 (千株)	増加 (千株)	減少 (千株)	当事業年度末 (千株)
普通株式	2,400	-	-	2,400

2．配当に関する事項

(1)配当金支払額

平成26年6月18日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

（イ） 配当金の総額	350,000千円
（ロ） 1株当たり配当額	145.83円
（ハ） 基準日	平成26年3月31日
（ニ） 効力発生日	平成26年6月18日

(2)基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

平成27年6月16日開催の定時株主総会において、次の議案を決議することを予定しております。

・普通株式の配当に関する事項

（イ） 配当金の総額	250,000千円
（ロ） 配当の原資	利益剰余金
（ハ） 1株当たり配当額	104.17円
（ニ） 基準日	平成27年3月31日
（ホ） 効力発生日	平成27年6月16日

第35期（自平成27年4月 1日 至平成28年3月31日）

1．発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 (千株)	増加 (千株)	減少 (千株)	当事業年度末 (千株)
普通株式	2,400	-	-	2,400

## 2. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

平成27年6月16日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

## ・普通株式の配当に関する事項

(イ)	配当金の総額	250,000千円
(ロ)	1株当たり配当額	104.17円
(ハ)	基準日	平成27年3月31日
(ニ)	効力発生日	平成27年6月16日

## (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

平成28年6月15日開催の定時株主総会において、次の議案を決議することを予定しております。

## ・普通株式の配当に関する事項

(イ)	配当金の総額	350,000千円
(ロ)	配当の原資	利益剰余金
(ハ)	1株当たり配当額	145.83円
(ニ)	基準日	平成28年3月31日
(ホ)	効力発生日	平成28年6月15日

## (リース取引関係)

## ファイナンス・リース取引

## 所有権移転外ファイナンス・リース取引

## (1) リース資産の内容

有形固定資産

器具備品

## (2) リース資産の減価償却方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法により償却しております。

## (金融商品関係)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については、短期的な預金もしくは国債等に限定しております。資金の調達については、銀行等金融機関から借入はありません。

また、当社は、投資信託の運用を業として行っており、自社が運用する投資信託の商品性維持等を目的として、当該投資信託を投資有価証券として、あるいは特定金銭信託を通じ保有しております。

直接または特定金銭信託を通じ行っているデリバティブ取引は、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

## (2)金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

未収委託者報酬及び未収運用受託報酬は、相手先の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、相手先ごとの残高管理を行うとともに、延滞債権が発生した場合には管理部門役職者が顧客と直接交渉する体制としております。有価証券及び投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、運用先の信用リスクを極小化することを優先するため、主に国債もしくはこれに準ずるものに限定し、定期的に時価を把握し市場価格変動に留意しております。また、特定金銭信託を通じ保有している投資信託につきましては、為替変動リスクや価格変動リスクに晒されておりますが、その大部分については為替予約、株価指数先物、債券先物、スワップ取引などのデリバティブ取引によりヘッジしております。未払手数料は、支払期日に支払いを実行できなくなる流動性リスクに晒されておりますが、手許流動性を維持することにより管理しております。

デリバティブ取引は株価指数先物取引及び、その他の指数先物取引を行っております。当社は、事業活動において存在するリスクを的確に把握し、リスク管理を適切に実行すべく、リスク管理基本規程を設けております。有価証券を含む投資商品の投資については「シードマネーガイドライン」及び「資本剰余金及び営業キャッシュに係る投資ガイドライン」の規程に基づき決定され、担当部署において管理しております。

デリバティブ取引については、組織的な管理体制により、毎日ポジション並びに評価額及び評価損益の管理を行っております。

## (3)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。



## 2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（（注2）参照）。

第34期(平成27年3月31日)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金・預金	4,006,104	4,006,104	-
(2) 未収委託者報酬	2,133,487	2,133,487	-
(3) 未収運用受託報酬	1,220,234	1,220,234	-
(4) 金銭の信託	1,314,154	1,314,154	-
(5) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	2,428,106	2,449,590	21,484
その他有価証券	2,092,291	2,092,291	-
資産計	13,194,375	13,215,860	21,484
(1) 未払手数料	1,258,595	1,258,595	-
負債計	1,258,595	1,258,595	-
デリバティブ取引（*1）	(2,257)	(2,257)	-
デリバティブ取引計	(2,257)	(2,257)	-

（\*1）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で示しております。

第35期(平成28年3月31日)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金・預金	9,636,443	9,636,443	-
(2) 未収委託者報酬	2,292,951	2,292,951	-
(3) 未収運用受託報酬	1,113,454	1,113,454	-
(4) 金銭の信託	907,640	907,640	-
(5) 有価証券及び投資有価証券			
その他有価証券	853,648	853,648	-
資産計	14,804,136	14,804,136	-
(1) 未払手数料	1,263,382	1,263,382	-
負債計	1,263,382	1,263,382	-

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金・預金、(2) 未収委託者報酬、及び(3) 未収運用受託報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 金銭の信託

信託財産は、主として投資信託、デリバティブ取引、その他の資産（コールローン・委託証拠金等）で構成されております。これらの時価について投資信託については基準価格、デリバティブ取引に関しては、上場デリバティブ取引は取引所の価格、為替予約取引は先物為替相場、店頭デリバティブ取引は取引先金融機関から提示された価格等によっております。また、その他の資産については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

#### (5) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、国債及び投資信託受益証券は、証券会社等からの時価情報によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項（有価証券関係）をご参照下さい。

### 負債

#### (1) 未払手数料

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

### デリバティブ取引

注記事項（デリバティブ取引関係）をご参照ください。

#### (注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

下記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表には含めておりません。

関係会社株式は、当社の100%子会社であるワイアイシーエム（デラウエア）社の株式です。

（単位：千円）

区分	第34期(平成27年3月31日)	第35期(平成28年3月31日)
	貸借対照表計上額	貸借対照表計上額
関係会社株式	84,560	84,560

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

第34期(平成27年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金・預金	4,006,104	-	-	-
未収委託者報酬	2,133,487	-	-	-
未収運用受託報酬	1,220,234	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券	-	700,000	1,650,000	-
その他の有価証券のうち 満期のあるもの	360,000	720,000	-	-
合計	7,719,825	1,420,000	1,650,000	-

第35期(平成28年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金・預金	9,636,443	-	-	-
未収委託者報酬	2,292,951	-	-	-
未収運用受託報酬	1,113,454	-	-	-
合計	13,042,848	-	-	-

(有価証券関係)

## 1. 満期保有目的の債券

第34期(平成27年3月31日)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	2,428,106	2,449,590	21,484
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	-	-	-
合計	2,428,106	2,449,590	21,484

第35期(平成28年3月31日)

該当事項はありません。

## 2. 子会社株式

子会社株式（当事業年度の貸借対照表計上額 84,560千円、前事業年度の貸借対照表計上額 84,560千円）は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## 3. その他有価証券

第34期(平成27年3月31日)

区分	種類	取得原価 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	1,099,159	1,106,712	7,553
	(3) その他(注)	1,448,129	1,486,221	38,091
	小計	2,547,288	2,592,933	45,645
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他(注)	814,219	813,512	706
	小計	814,219	813,512	706
合計		3,361,507	3,406,445	44,938

(注) 投資信託受益証券及び金銭の信託であります。

第35期(平成28年3月31日)

区分	種類	取得原価 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他(注)	821,379	827,884	6,505
	小計	821,379	827,884	6,505
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他(注)	943,591	933,405	10,187
	小計	943,591	933,405	10,187
合計		1,764,970	1,761,288	3,682

(注) 投資信託受益証券及び金銭の信託であります。

## 4. 事業年度中に売却した満期保有目的の債券

第34期(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

該当事項はありません。

第35期(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

種類	売却原価 (千円)	売却額 (千円)	売却損益 (千円)
国債	2,417,495	2,448,019	30,524

## 売却の理由

当社の親会社であるクレディ・アグリコル エス・アーは銀行業を営んでおり、当事業年度中に適用されたボルカールールをグループとして遵守する必要があるため、グループの方針に基づき売却したためであります。

## 5. 事業年度中に売却したその他有価証券

第34期（自平成26年4月 1日 至平成27年3月31日）

種類	売却額 （千円）	売却益の合計額 （千円）	売却損の合計額 （千円）
投資信託	375,296	-	26,765

（注）損益計算書上、ヘッジ手段から生じる決済及び評価益（28,370千円）と相殺して、有価証券売却益（1,605千円）として表示しております。

第35期（自平成27年4月 1日 至平成28年3月31日）

種類	売却額 （千円）	売却益の合計額 （千円）	売却損の合計額 （千円）
金銭の信託	380,000	-	4,343
投資信託	159,071	16,258	657
国債	735,437	4,742	-

## (デリバティブ取引関係)

## 1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

## 株式関連

第34期(平成27年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 （千円）	契約額等のうち1年超 （千円）	時価 （千円）	評価損益 （千円）
市場取引	その他の指数先物取引 売建 東証REIT指数先物	110,868	-	113,125	2,257
	合計	110,868	-	113,125	2,257

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づいております。

第35期(平成28年3月31日)

該当事項はありません。

## 2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

第34期(平成27年3月31日)

該当事項はありません。

第35期(平成28年3月31日)

該当事項はありません。

## (退職給付関係)

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。確定給付企業年金制度（積立型制度であります。また、複数事業主制度であります。年金資産の額は合理的に算定しています。）では、給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給しております。退職一時金制度（非積立型制度であります。）では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。

なお、当社が有する確定給付企業年金制度及び退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

## 2. 簡便法を適用した確定給付制度

## (1)簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

(千円)

	第34期 (自平成26年4月 1日 至平成27年3月31日)	第35期 (自平成27年4月 1日 至平成28年3月31日)
退職給付引当金の期首残高	59,347	35,980
退職給付費用	214,893	236,781
退職給付の支払額	103,535	111,315
制度への拠出額	134,725	133,992
退職給付引当金の期末残高	35,980	27,454

## (2)退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

(千円)

	第34期 (平成27年3月31日)	第35期 (平成28年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	548,995	639,716
年金資産	519,455	620,081
会計基準変更差異の未処理額	-	-
	29,540	19,634
非積立型制度の退職給付債務	6,440	7,820
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	35,980	27,454
退職給付に係る負債	35,980	27,454
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	35,980	27,454

## (3)退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用                      前事業年度 214,893千円                      当事業年度 236,781千円

## 3. 確定拠出制度

確定拠出制度への要拠出額                      前事業年度44,960千円、当事業年度43,800千円であります。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第34期 (平成27年3月31日)	第35期 (平成28年3月31日)
<b>繰延税金資産</b>		
前受収益否認額	11,373 千円	890 千円
未払費用否認額	54,530 千円	74,532 千円
繰延資産償却額	- 千円	2,264 千円
未払事業税	68,052 千円	48,609 千円
賞与引当金等損金算入限度超過額	58,178 千円	70,905 千円
退職給付引当金損金算入限度超過額	11,636 千円	8,472 千円
減価償却資産	5,401 千円	4,637 千円
資産除去債務	17,128 千円	16,670 千円
減損損失否認額	- 千円	3,732 千円
その他有価証券評価差額金	- 千円	19,346 千円
その他	9,369 千円	9,558 千円
繰延税金資産小計	235,667 千円	259,615 千円
評価性引当額	54,914 千円	57,138 千円
繰延税金資産合計	180,753 千円	202,477 千円
<b>繰延税金負債</b>		
資産除去債務会計基準適用に伴う有形 固定資産計上額	8,058 千円	5,721 千円
その他有価証券評価差額金	16,016 千円	- 千円
繰延税金負債合計	24,074 千円	5,721 千円
繰延税金資産の純額	156,679 千円	196,756 千円



## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

第34期(平成27年3月31日)

法定実効税率	35.6%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.6%
住民税均等割等	0.1%
連結納税制度適用による影響	-
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.4%
評価性引当額の減少	13.9%
その他	0.3%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	21.7%

第35期(平成28年3月31日)

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

## 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

第34期（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成27年法律第9号）が平成27年3月31日に公布されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産および繰延税金負債の計算（ただし、平成27年4月1日以降解消されるものに限る）に使用した法定実効税率は、前事業年度の35.6%から、回収または支払が見込まれる期間が平成27年4月1日から平成28年3月31日までのものは33.1%、平成28年4月1日以降のものについては32.3%にそれぞれ変更されております。

この税率変更による繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)及び法人税等調整額への影響は軽微です。

第35期（自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成28年法律第15号）及び「地方税法等の一部を改正する法律」（平成28年法律第13号）が平成28年3月29日に国会で成立し、平成28年4月1日以降に開始する事業年度から法人税率等の引き下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の33.1%から、平成28年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については30.9%となります。この税率変更による繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)及び法人税等調整額への影響は軽微です。

（資産除去債務関係）

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

### (1) 資産除去債務の概要

当社は、本社オフィスに関して、建物所有者との間で貸室賃貸借契約を締結しており、賃借期間終了時に原状回復する義務を有しているため、契約上の義務に関して資産除去債務を計上しております。

### (2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を17年間(建物の減価償却期間)と見積り、割引率は当該減価償却期間に見合う国債の流通利回りを使用して、資産除去債務の金額を計算しております。

(3)事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

	第34期 (自平成26年4月 1日 至平成27年3月31日)		第35期 (自平成27年4月 1日 至平成28年3月31日)	
期首残高	51,930	千円	52,964	千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	-		-	
時の経過による調整額	1,034	千円	1,054	千円
資産除去債務の履行による減少額	-		-	
その他増減額（は減少）	-		-	
期末残高	52,964	千円	54,018	千円

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

第34期（自平成26年4月 1日 至平成27年3月31日）及び第35期（自平成27年4月 1日 至平成28年3月31日）

当社は「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社であり証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っております。また「金融商品取引法」に定める投資助言・代理業を行っております。当社は、投資運用業及び投資助言・代理業にこれらの附帯業務を集約した単一セグメントを報告セグメントとしております。従いまして、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。

(関連情報)

第34期（自平成26年4月 1日 至平成27年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

(単位：千円)

日本	ルクセンブルグ	その他	合計
16,913,125	2,176,269	802,404	19,891,798

(注)営業収益は顧客の所在地を基準とし、国ごとに分類しております。

## (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称	委託者報酬	関連するセグメント名
アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（トルコリラコース）	3,382,436	投資運用業及び投資助言・代理業並びにこれらの附帯業務
アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（豪ドルコース）	2,482,477	投資運用業及び投資助言・代理業並びにこれらの附帯業務

第35期（自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）

## 1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 営業収益

(単位：千円)

日本	ルクセンブルグ	その他	合計
15,997,749	1,783,805	887,742	18,669,296

(注)営業収益は顧客の所在地を基準とし、国ごとに分類しております。

## (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称	委託者報酬	関連するセグメント名
アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（トルコリラコース）	2,800,896	投資運用業及び投資助言・代理業並びにこれらの附帯業務
アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（豪ドルコース）	2,383,231	投資運用業及び投資助言・代理業並びにこれらの附帯業務

(報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報)

該当事項はありません。

(報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報)

該当事項はありません。

(報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報)

該当事項はありません。

## （関連当事者情報）

第34期（自平成26年4月 1日 至平成27年3月31日）

## 1. 関連当事者との取引

## (1)財務諸表提出会社の親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は 出資金	事業の内容 又は職 業	議決権 の所有 （被所 有）割合	関係内容		取引の内容	取引金額 （千円）	科目	期末残高 （千円）
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
親 会 社	アムン ディ・エス アー	フラン ス パリ 市	596,262 （千ユーロ）	投 資 顧問業	（被所 有）間接 100%	なし	投資信託、 投資顧問 契約の再 委任等	運用受託報酬*1	117,303	未収運用受 託報酬	29,378
								情報提供、コン サルティング料 （その他営業収 益）*1	275,356	未収収益	74,065
								委託調査費等の 支払*2	411,856	未払金	106,207
親 会 社	アムン ディ・ジャ パンホール ディング株 式会社	東京都 千代田区	5,400,000 （千円）	有価証券 の保有	（被所 有）直 接100%	なし	連結納税 親会社	法人税等の支払	616,896	関係会 社 未払 金	616,896

(注)

## 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

\*1各報酬等について、当該各契約に基づいて決定しております。

\*2委託調査費等の支払については、ファンドの運用資産の割合に応じた一定の比率により決定しております。

## 2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

## (2)兄弟会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は 出資金	事業の 内容又は 職業	議決権 の所有 (被所有) 割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
兄弟会社	アムンディ・ルクセンブルグ	ルクセンブルグ	153,419 (千ユーロ)	投資顧問業	なし	なし	運用再委託	運用受託報酬*1	2,017,736	未収運用受託報酬	554,086
								委託者報酬*1	147,501	未収委託者報酬	13,245
								投資助言報酬*1	11,032	未収投資助言報酬	2,979

(注)

## 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

\*1各報酬等について、当該各契約に基づいて決定しております。

## 2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

## 2. 親会社に関する注記

## 親会社情報

アムンディ・ジャパン ホールディング株式会社（非上場）

アムンディ・エス・アー（非上場）

アムンディ・グループ エス・アー（非上場）

クレディ・アグリコル エス・アー（ユーロネクスト パリに上場）

第35期（自平成27年4月 1日 至平成28年3月31日）

## 1. 関連当事者との取引

## (1)財務諸表提出会社の親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は 出資金	事業の 内容又は 職業	議決権 の所有 (被所有) 割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
親会社	アムンディ・アセットマネジメント	フランス パリ市	596,262 (千ユーロ)	投資 顧問業	(被所有)間接 100%	なし	投資信託、 投資顧問契 約の再委任 等	運用受託報酬*1	116,857	未収運用受 託報酬	27,461
								情報提供、コン サルティング料 (その他営業収 益)*1	407,127	未収収益	108,242
								委託調査費等の 支払*2	340,268	未払金	69,245
親会社	アムンディ・ジャパンホールディング株式会社	東京都 千代田区	5,400,000 (千円)	有価証券 の保有	(被所有)直 接100%	なし	連結納税 親会社	法人税等の支払	562,135	関係会 社未払 金	562,135

(注)

## 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

\*1各報酬等について、当該各契約に基づいて決定しております。

\*2委託調査費等の支払については、ファンドの運用資産の割合に応じた一定の比率により決定しております。

## 2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

## 3. アムンディ・エス・アーは、平成27年11月12日よりアムンディ・アセットマネジメントに名称を変更しております。

## (2)兄弟会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は 出資金	事業の内 容又は職 業	議決権 の所有 (被所有) 割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
兄弟会社	アムンディ・ルクセンブルグ	ルクセン ブルグ	153,419 (千ユーロ)	投資 顧問業	なし	なし	運用再委託	運用受託報酬*1	1,732,958	未収運用 受託報酬	339,067
								委託者報酬*1	43,625	未収委託 者報酬	43,625
								投資助言報酬*1	8,054	未収投資 助言報酬	1,796

(注)

## 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

\*1各報酬等について、当該各契約に基づいて決定しております。

2.上記の金額には消費税等は含まれておりません。

## 2. 親会社に関する注記

### 親会社情報

アムンディ・ジャパン ホールディング株式会社（非上場）

アムンディ・アセットマネジメント（非上場）

アムンディ（ユーロネクスト パリに上場）

クレディ・アグリコル エス・アー（ユーロネクスト パリに上場）

### （1株当たり情報）

	第34期 （自平成26年4月 1日 至平成27年3月31日）	第35期 （自平成27年4月 1日 至平成28年3月31日）
1株当たり純資産額	4,364.48 円	5,148.98 円
1株当たり当期純利益金額	1,317.96 円	901.78 円

なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

	第34期 （自平成26年4月 1日 至平成27年3月31日）	第35期 （自平成27年4月 1日 至平成28年3月31日）
当期純利益（千円）	3,163,105	2,164,266
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る当期純利益（千円）	3,163,105	2,164,266
期中平均株式数（千株）	2,400	2,400

### （重要な後発事象）

第34期（自平成26年4月 1日 至平成27年3月31日）

該当事項はありません。

第35期（自平成27年4月 1日 至平成28年3月31日）

### （企業結合等関係）

当社は、アムンディ・ジャパン証券株式会社と平成28年2月10日に合併契約書を締結し、平成28年2月25日開催の臨時株主総会において同契約書の承認を得ました。この契約書に基づき、当社は平成28年4月1日付けでアムンディ・ジャパン証券株式会社を吸収合併致しました。

## 1. 合併の理由

機関投資家向け業務の効率化および投資信託事業のラップ等新規市場の開拓

## 2. 合併の概要

## (1) 合併する相手先の名称

アムンディ・ジャパン証券株式会社

## (2) 合併の方法

当社を存続会社とし、アムンディ・ジャパン証券株式会社は解散する。

## (3) 合併後の会社の名称

アムンディ・ジャパン株式会社と称する。

## (4) 合併に際して発行する株式

本合併は、無対価とし、当社は、合併に際して株式を発行しない。

## (5) 資本金及び準備金等

本合併は、無対価であるため、合併により当社の資本金、資本準備金は増加せず、資本金・資本準備金以外の株主資本については会社計算規則に従う。

## (6) 効力発生日

合併の効力発生日は、平成28年4月1日とする。

## (7) 財産の引継ぎ

アムンディ・ジャパン証券株式会社は、平成28年3月31日現在の貸借対照表を基礎とし、一切の財産、負債及び権利義務を合併の効力発生日において当社に引継ぐ。

## (8) 合併交付金

当社は、合併の効力発生日現在の株主名簿に記載された株主に対して、合併交付金は支払わない。

## (9) 合併する相手会社の規模

平成28年3月31日現在

営業収益	658,975千円
当期純利益	296,363千円
総資産額	1,275,553千円
総負債額	144,655千円
純資産額	1,130,898千円



## (1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

当中間会計期間末  
(平成28年9月30日)

資産の部		
流動資産		
現金・預金		10,699,563
前払費用		113,736
未収入金		2,200
未収委託者報酬		1,797,359
未収運用受託報酬		1,083,068
未収投資助言報酬		2,865
未収収益		332,629
繰延税金資産		143,721
立替金		85,295
その他		97
流動資産合計		14,260,533
固定資産		
有形固定資産	*1	
建物(純額)		102,581
器具備品(純額)		97,897
建設仮勘定		25,709
有形固定資産合計		226,187
無形固定資産	*1	
ソフトウェア		41,841
商標権		1,170
無形固定資産合計		43,011
投資その他の資産		
金銭の信託		1,797,907
投資有価証券		37,368
関係会社株式		84,560
長期未収入金		2,000
長期差入保証金		218,145
ゴルフ会員権		60
貸倒引当金		2,000
前払年金費用		3,461
投資その他の資産合計		2,141,501
固定資産合計		2,410,699
資産合計		16,671,232

（単位：千円）

当中間会計期間末  
(平成28年9月30日)

負債の部	
流動負債	
リース債務	2,319
預り金	99,646
未払金	1,043,338
未払手数料	898,607
その他未払金	144,732
未払費用	287,898
未払法人税等	164,234
関係会社未払金	350,233
未払消費税等	46,358
賞与引当金	445,564
役員賞与引当金	123,007
流動負債合計	2,562,598
固定負債	
リース債務（長期）	5,353
繰延税金負債	5,813
賞与引当金	51,344
役員賞与引当金	39,959
資産除去債務	59,150
固定負債合計	161,619
負債合計	2,724,217
純資産の部	
株主資本	
資本金	1,200,000
資本剰余金	
資本準備金	1,076,268
その他資本剰余金	1,542,567
資本剰余金合計	2,618,835
利益剰余金	
利益準備金	110,093
その他利益剰余金	
別途積立金	1,600,000
繰越利益剰余金	8,421,844
利益剰余金合計	10,131,936
株主資本合計	13,950,771
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	3,757
評価・換算差額等合計	3,757
純資産合計	13,947,015
負債純資産合計	16,671,232

## (2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	当中間会計期間 (自 平成28年4月 1日 至 平成28年9月30日)
営業収益	
委託者報酬	6,183,716
運用受託報酬	1,461,521
投資助言報酬	5,179
その他営業収益	370,245
営業収益合計	8,020,661
営業費用	4,356,976
一般管理費	*1 2,272,456
営業利益	1,391,229
営業外収益	*2 4,184
営業外費用	*3 56,486
経常利益	1,338,927
税引前中間純利益	1,338,927
法人税、住民税及び事業税	461,935
法人税等調整額	67,223
法人税等合計	529,158
中間純利益	809,769

(3) 中間株主資本等変動計算書  
(自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)

(単位:千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	1,200,000	1,076,268	1,342,567	2,418,835
当中間期変動額				
剰余金の配当				
中間純利益				
合併による増加			200,000	200,000
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）				
当中間期変動額合計			200,000	200,000
当中間期末残高	1,200,000	1,076,268	1,542,567	2,618,835

	株主資本				
	利益剰余金				株主資本合計
	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計	
		別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	110,093	1,600,000	7,031,177	8,741,269	12,360,104
当中間期変動額					
剰余金の配当			350,000	350,000	350,000
中間純利益			809,769	809,769	809,769
合併による増加			930,898	930,898	1,130,898
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）					
当中間期変動額合計			1,390,667	1,390,667	1,590,667
当中間期末残高	110,093	1,600,000	8,421,844	10,131,936	13,950,771

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	2,546	2,546	12,357,559
当中間期変動額			
剰余金の配当			350,000
中間純利益			809,769
合併による増加			1,130,898
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	1,211	1,211	1,211
当中間期変動額合計	1,211	1,211	1,589,456
当中間期末残高	3,757	3,757	13,947,015

## 注記事項

## （重要な会計方針）

## 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

## (1) 関係会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

## (2) その他有価証券

時価のあるもの

当中間会計期間末の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

## 2. 金銭の信託の評価基準及び評価方法

時価法を採用しております。(評価差額は全部純資産直入法により処理しております。)

## 3. 固定資産の減価償却の方法

## (1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法により償却しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 15年～18年

器具備品 4年～15年

## (2) 無形固定資産

定額法により償却しております。

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

## (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法により償却しております。

## 4. 引当金の計上基準

## (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

## (2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当中間会計期間末における退職給付債務(直近の年金財政計算上の責任準備金をもって退職給付債務とする簡便法)及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

## (3) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当中間会計期間に帰属する額を計上しております。なお、ある条件を満たした者に対して、一定金額を繰延支給する制度が導入されております。当該賞与は数年間に分割支給されるため、1年を超えて支払われる部分については固定負債に計上しております。

## (4) 役員賞与引当金

役員に対する賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当中間会計期間に帰属する額を計上しております。なお、ある条件を満たした者に対して、一定金額を繰延支給する制度が導入されております。当該賞与は数年間に分割支給されるため、1年を超えて支払われる部分については固定負債に計上しております。

## 5. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

## (1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

## (2) 連結納税制度の適用

アムンディ・ジャパンホールディング株式会社を連結納税親会社とする連結納税制度を適用しております。

## (中間貸借対照表関係)

当中間会計期間末（平成28年9月30日）

## \*1固定資産の減価償却累計額

有形固定資産	255,882千円
無形固定資産	47,261千円

## (中間損益計算書関係)

当中間会計期間（自 平成28年4月 1日 至 平成28年9月30日）

## \*1減価償却実施額

有形固定資産	16,165千円
無形固定資産	6,013千円

## \*2営業外収益のうち主要なもの

有価証券利息	144千円
受取配当金	3,100千円

## \*3営業外費用のうち主要なもの

為替差損	49,445千円
有価証券売却損	5,084千円
支払利息	273千円
電話加入権償却	1,150千円

## (中間株主資本等変動計算書関係)

当中間会計期間（自 平成28年4月 1日 至 平成28年9月30日）

## 1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 (千株)	増加(千株)	減少(千株)	当中間会計期間末 (千株)
普通株式	2,400	-	-	2,400

## 2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

## 3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

## 4. 配当に関する事項

剰余金の配当

決議	株式の 種類	配当金の総額 (千円)	一株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月15日 定時株主総会	普通株式	350,000	145円83銭	平成28年3月31日	平成28年6月15日

配当原資については、利益剰余金としております。

## （リース取引関係）

当中間会計期間（自 平成28年4月 1日 至 平成28年9月30日）

## ファイナンス・リース取引

## 所有権移転外ファイナンス・リース取引

## (1) リース資産の内容

有形固定資産

器具備品

## (2) リース資産の減価償却方法

重要な会計方針「3.固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

## （金融商品関係）

当中間会計期間（自 平成28年4月 1日 至 平成28年9月30日）

## 金融商品の時価等に関する事項

中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（（注2）参照）。

（単位：千円）

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	10,699,563	10,699,563	-
(2) 未収委託者報酬	1,797,359	1,797,359	-
(3) 未収運用受託報酬	1,083,068	1,083,068	-
(4) 金銭の信託	1,797,907	1,797,907	-
(5) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	37,368	37,368	-
資産計	15,415,266	15,415,266	-
(1) 未払手数料	898,607	898,607	-
負債計	898,607	898,607	-

## （注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

## 資産

## (1) 現金・預金、(2) 未収委託者報酬、及び(3) 未収運用受託報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (4) 金銭の信託

信託財産は、主として投資信託、デリバティブ取引、その他の資産（コールローン・委託証拠金等）で構成されております。これらの時価について投資信託については基準価額、デリバティブ取引に関しては、上場デリバティブ取引は取引所の価格、為替予約取引は先物為替相場、店頭デリバティブ取引は取引先金融機関から提示された価格等によっております。また、その他の資産については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## (5) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、投資信託受益証券は、証券会社等からの時価情報によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項（有価証券関係）をご参照下さい。

**負債**

(1) 未払手数料

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

下記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表には含めておりません。

関係会社株式は、当社の100%子会社であるワイアイシーエム（デラウエア）社の株式です。

区分	中間貸借対照表計上額（千円）
関係会社株式	84,560

(注3) 金融商品の時価等に関する事項について補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(有価証券関係)

当中間会計期間末（平成28年9月30日）

1. 満期保有目的の債券

該当事項はありません。

2. 子会社株式及び関連会社株式

関係会社株式（中間貸借対照表計上額 84,560千円）は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

3. その他有価証券

(単位:千円)

区分	種類	取得原価	中間貸借対照表計上額	差額
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他(注)	9,331	10,535	1,204
	小計	9,331	10,535	1,204
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他(注)	1,831,377	1,824,740	6,637
	小計	1,831,377	1,824,740	6,637
合計		1,840,708	1,835,275	5,433

(注) 投資信託受益証券及び金銭の信託であります。

(デリバティブ取引関係)

当中間会計期間末（平成28年9月30日）

該当事項はありません。



## （企業結合等関係）

当社は、アムンディ・ジャパン証券株式会社と平成28年2月10日付合併契約に基づき、アムンディ・ジャパン証券株式会社を吸収合併致しました。

## 1. 企業結合の概要

## (1) 合併の目的

機関投資家向け業務の効率化および投資信託事業のラップ等新規市場の開拓

## (2) 合併の日程

合併契約締結日 平成 28年 2月 10日

合併効力発生日 平成 28年 4月 1日

## (3) 合併の方法

当社を存続会社とし、アムンディ・ジャパン証券株式会社を吸収合併消滅会社とする無対価による吸収合併方式

## 2. 実施した会計処理の概要

本取引は、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日）に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

## （資産除去債務関係）

当中間会計期間（自 平成28年4月 1日 至 平成28年9月30日）

資産除去債務のうち中間貸借対照表に計上しているもの

当中間会計期間における当該資産除去債務の総額の増減

期首残高	54,018千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	4,605千円
時の経過による調整額	527千円
資産除去債務の履行による減少額	-千円
その他増減額（は減少）	-千円
当中間会計期間末残高	59,150千円

## （セグメント情報等）

## セグメント情報

当中間会計期間（自 平成28年4月 1日 至 平成28年9月30日）

当社は「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社であり証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っております。また「金融商品取引法」に定める投資助言・代理業を行っております。当社は、投資運用業及び投資助言・代理業にこれらの附帯業務を集約した単一セグメントを報告セグメントとしております。従いまして、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。

## 関連情報

当中間会計期間（自 平成28年4月 1日 至 平成28年9月30日）

## 1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が中間損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 営業収益

(単位：千円)

日本	ルクセンブルグ	その他	合計
6,747,857	776,954	495,850	8,020,661

(注)営業収益は顧客の所在地を基準とし、国ごとに分類しております。

## (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称	委託者報酬	関連するセグメント名
アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド (トルコリラコース)	832,698	投資運用業及び投資助言・代理 業並びにこれらの附帯業務

## 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

当中間会計期間（自 平成28年4月 1日 至 平成28年9月30日）

該当事項はありません。

## 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

当中間会計期間（自 平成28年4月 1日 至 平成28年9月30日）

該当事項はありません。

## 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

当中間会計期間（自 平成28年4月 1日 至 平成28年9月30日）

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

当中間会計期間（自 平成28年4月 1日 至 平成28年9月30日）

1株当たり純資産額 5,811円 26銭

1株当たり中間純利益 337円 40銭

なお、潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

1株当たり中間純利益金額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

中間純利益 809,769千円

普通株主に帰属しない金額 - 千円

普通株式に係る中間純利益 809,769千円

期中平均株式数 2,400千株

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

#### 4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- (1) 自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます)。
- (2) 運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます)。
- (3) 通常の見積りの条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下(4)、(5)において同じ）または子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ）と有価証券の売買その他の取引または金融デリバティブ取引を行うこと。
- (4) 委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- (5) 上記(3)、(4)に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

#### 5【その他】

- (1) 定款の変更、事業譲渡または事業譲受、出資の状況その他の重要事項  
該当事項はありません。
- (2) 訴訟事件その他の重要事項  
訴訟事件その他委託会社等に重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はありません。

## 第2【その他の関係法人の概況】

## 1【名称、資本金の額及び事業の内容】

## (1) 受託会社

名 称	資本金の額 (平成28年3月末日現在)	事 業 の 内 容
株式会社りそな銀行	279,928百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づき信託業務を営んでいます。

## (2) 販売会社

名 称	資本金の額 (平成28年3月末日現在)	事 業 の 内 容
株式会社りそな銀行	279,928百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づき信託業務を営んでいます。
株式会社SBI証券	47,937百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
楽天証券株式会社	7,495百万円	

## 2【関係業務の概要】

## (1) 受託会社

ファンドの受託会社として、投資信託財産の保管・管理・計算、外国証券を保管・管理する外国の保管銀行への指図・連絡等を行います。受託会社は、ファンドにかかる信託事務の処理の一部について日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。その場合には、再信託にかかる契約書類に基づいて所定の事務を行います。

## &lt;再信託受託会社の概要&gt;

- ・名称 : 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社
- ・資本金の額 : 51,000百万円（平成28年3月末日現在）
- ・事業の内容 : 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。
- ・再信託の目的 : 原信託契約にかかる信託業務の一部（信託財産の管理）を原信託受託会社から再信託受託会社（日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社）へ委託するため、原信託財産の全てを再信託受託会社へ移管することを目的とします。

## (2) 販売会社

ファンドの販売会社として募集の取扱および販売を行い、投資信託契約の一部解約に関する事務、一部解約金および収益分配金ならびに償還金の支払に関する事務等を行います。

### 3【資本関係】

(1) 受託会社

該当事項はありません。

(2) 販売会社

該当事項はありません。

### 第3【参考情報】

当計算期間において、各ファンドに係る金融商品取引法第25条第1項に掲げる書類は、以下の通り提出されております。

書類名	提出年月日
臨時報告書	平成28年9月2日
	平成28年12月5日
有価証券報告書	平成28年11月25日
訂正有価証券届出書	平成28年11月25日

独立監査人の監査報告書

平成28年6月10日

アムンディ・ジャパン株式会社

取締役会 御中

PwCあらた監査法人

指定社員 公認会計士 鶴田光夫  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているアムンディ・ジャパン株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第35期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

**財務諸表に対する経営者の責任**

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

**監査人の責任**

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

**監査意見**

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アムンディ・ジャパン株式会社の平成28年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

**強調事項**

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成28年4月1日にアムンディ・ジャパン証券株式会社を吸収合併した。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

**利害関係**

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

平成29年3月29日

アムンディ・ジャパン株式会社  
取締役会御中

PwCあらた有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 鶴田 光夫  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているアムンディ・欧州リート・ファンド（高金利通貨戦略コース）＜毎月決算型＞の平成28年8月26日から平成29年2月27日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アムンディ・欧州リート・ファンド（高金利通貨戦略コース）＜毎月決算型＞の平成29年2月27日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 利害関係

アムンディ・ジャパン株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

平成29年3月29日

アムンディ・ジャパン株式会社

取締役会御中

PwCあらた有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 鶴田 光夫  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているアムンディ・欧州リート・ファンド（高金利通貨戦略コース）＜年2回決算型＞の平成28年8月26日から平成29年2月27日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アムンディ・欧州リート・ファンド（高金利通貨戦略コース）＜年2回決算型＞の平成29年2月27日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 利害関係

アムンディ・ジャパン株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。



## 独立監査人の中間監査報告書

平成28年12月2日

アムンディ・ジャパン株式会社

取締役会御中

PwCあらた有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 鶴田光夫  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているアムンディ・ジャパン株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第36期事業年度の中間会計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

## 中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、アムンディ・ジャパン株式会社の平成28年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。